

NEC プロジェクター

ViewLight[®]
ビューライト

NP-PV800UL-WJL/NP-PV800UL-BJL

NP-PV730UL-WJL/NP-PV730UL-BJL

取扱説明書

本機を安全にお使いいただくためにご使用前に必ずお読みください

目 次

本機を安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずお読みください	4
本書の表記について	25

1. 製品概要、添付品、名称を確認する 26

1-1. 特長	26
1-2. 添付品の確認	28
1-3. 本体各部の名称	29
1-4. リモコン各部の名称	34

2. 映像を投写する（基本操作） 40

2-1. 映像を投写する流れ	40
2-2. コンピューターと接続する／電源コードを接続する	41
2-3. 本機の電源を入れる	43
2-4. 入力信号を選択する	45
2-5. 投写画面の位置と大きさを調整する	47
2-6. 映像や音声を調整する	57
2-7. 本機の電源を切る	58
2-8. あとかたづけ	59

3. 付 録 60

3-1. 仕 様	60
3-2. 故障かな？と思ったら	63
3-3. インジケーター表示一覧	66
3-4. レンズユニット（別売）の取り付けかた	68

保証と修理サービス（必ずお読みください）	72
NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターのご案内	裏表紙

はじめに

このたびは、NEC プロジェクター（以降「本機」または「プロジェクター」と呼びます）をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本機は、コンピューターやブルーレイプレーヤーなどに接続して、文字や映像をスクリーンに鮮明に投写するプロジェクターです。

本機を安全に正しく使用していただくため、ご使用の前に、この取扱説明書（本書）をよくお読みください。また、万一ご使用中にわからないことや故障ではないかと思ったときにお読みください。

本書は、下記の機種について共通の説明書です。NP-PV800UL-WJL を主にして説明しています。

本製品には「保証書」を添付しています。保証書は、お買い上げの販売店から必ずお受け取りのうえ、大切に保存してください。

本機は、日本国内向けモデルです。

- 本書で説明している機種名

NP-PV800UL-WJL/NP-PV800UL-BJL/NP-PV730UL-WJL/NP-PV730UL-BJL

- 機種名について

本機に貼付している銘版では、機種名を「NP-PV800UL」または「NP-PV730UL」と表記しています。

本書では、機種名に「-WJL」または「-BJL」を付けて表記しています。

設置や調整およびお手入れの方法などを説明している「設置説明書」を、当社ホームページに掲載しています。

<https://www.sharp-nec-displays.com/dl/jp/pj/manual/lineup.html>

【注意】



- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
 - (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
 - (3) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。
 - (4) 本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、当社では（3）項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
-

本機を安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずお読みください




絵表示について

この説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡や大けがをするなど人身事故の原因となります。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり周囲の家財に損害をあたえたりすることがあります。

絵表示の例

	▲ 記号は注意（警告を含む）をうながすことを表しています。 図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⊘ 記号はしてはいけないことを表しています。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	● 記号はしなければならないことを表しています。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。



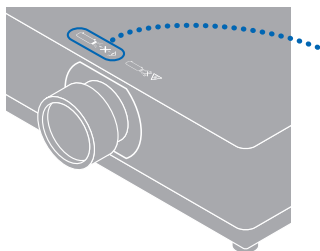
プロジェクターの投写光について



禁止

投写光と本体の表示

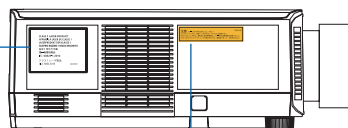
- プロジェクターのレンズをのぞかないでください。
動作中は強い光が投写されていますので、視力障害の原因となります。またレンズ近くでのレーザー光への露光は、やけどを引き起こす可能性があります。特にお子様には注意してください。
- 投写光を、光学機器（ルーペや反射鏡など）を使ってのぞかないでください。視力障害の原因になります。
- プロジェクターの電源を入れる際は、投写範囲内にレンズを見ている人がいないことを確認してください。
- お子様に一人でプロジェクターを操作させないでください。お子様が操作する場合は、必ず大人が付き添い、お子様から目を離さないでください。
- レンズの上のプロジェクター上面に、次ののぞきこみ禁止を表す図記号を表示しています。



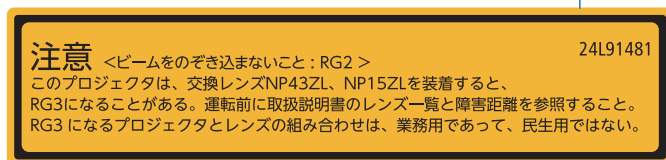
次ページへ続く



- プロジェクター本体に次のラベルを貼付しています。
レーザー説明ラベル



レンズ交換注意ラベル



- 本機は、レンズユニットとの組み合わせによって、IEC 62471-5:2015規格のリスクグループ 2 または 3 に分類されます。
RG3 の場合、本機はプロフェッショナル用途となり、専門の設置業者による安全が担保された設置が必要です。
リスクグループについて、詳しくは 16 ページをご覧ください。
- レーザー光線の安全に関する注意事項は 13 ページをご覧ください。

電源について



必ず行う

プロジェクターは日本国内専用です

- このプロジェクターと添付の電源コードは国内使用専用です。



必ず行う

正しい電源電圧で使用する

- このプロジェクターは、交流 100 ボルト、50/60Hz の電源で使用するよう設計されています。プロジェクターを使用する前に、プロジェクターを接続する電源が要求を満たすものかを確認してください。
- プロジェクターの電源はコンセントを使用してください。危険ですので直接電灯線に接続しないでください。

警告



禁止



感電注意

電源コードの取り扱い

- このプロジェクターに添付している電源コードは、このプロジェクター専用です。安全のため他の機器には使用しないでください。

- 電源コードは大切に取扱ってください。コードが破損すると、火災・感電の原因となります。

- ・ 添付されているもの以外の電源コードは使用しない
- ・ コードの上に重い物をのせない
- ・ コードをプロジェクターの下敷きにしない
- ・ コードの上を敷物などで覆わない
- ・ コードを傷つけない、加工しない
- ・ コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない
- ・ コードを加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。

- 雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。

設置について



禁止

次のような所では使用しない

- 次のような所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- ・ ぐらついた台の上、傾いた所など、不安定な場所
- ・ 暖房の近くや振動の多い所
- ・ 屋外および湿気やほこりの多い場所
- ・ 油煙や湯気の当たるような場所
- ・ 調理台や加湿器のそば



水ぬれ禁止

- 次のような水にぬれるおそれがある所では使用しないでください。またプロジェクターの上に水の入った容器を置かないでください。火災・感電の原因となります。

- ・ 雨天や降雪時、海岸や水辺で使用しない
- ・ 風呂やシャワー室で使用しない
- ・ プロジェクターの上に花瓶、植木鉢を置かない
- ・ プロジェクターの上にコップ、化粧品、薬品を置かない

万一プロジェクターの内部に水などが入った場合は、まずプロジェクターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターに連絡してください。



プラグを抜く



注意

天吊り設置

- 天吊りなどの特別な工事が必要な設置については販売店にご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。落下してけがの原因となります。
設置業者様は、20 ページの「設置や保管についての注意事項」をご覧ください。
- 設置や取り扱いが適切でない、誤使用、改造、天災などに起因する事故、損害については、当社は一切責任を負いません。
- 天吊りなどの設置をしたときは、プロジェクターにぶらさがらないでください。落下してけがの原因となります。
- 天吊り設置のときは電源プラグを抜き差しできるように手の届くコンセントを使用してください。

使用について



禁止



プラグを抜く

内部に物を入れない

- プロジェクターの通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいる家庭では注意してください。万一異物がプロジェクター内部に入った場合は、まずプロジェクターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターに連絡してください。



プラグを抜く

故障したときは電源プラグを抜く

- プロジェクターから煙が出ている、変なにおいがする、変な音がする場合や、プロジェクターを落としたりキャビネットを破損した場合は、プロジェクターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となるだけでなく、視力障害ややけどの原因になります。NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターへ修理を依頼してください。
お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



分解禁止

プロジェクターの分解禁止

- プロジェクターのキャビネットを外したり、あけたりしないでください。
また改造しないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電およびレーザー光がもれることによる視力障害ややけどの原因となります。
内部の点検・調整・修理は NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターへ依頼してください。

 警告	
 禁止  高温注意	<p>プロジェクターの動作中にレンズの前に物を置かない</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 動作中にレンズにレンズキャップをしないでください。レンズキャップが高温になり変形します。 ● 動作中にレンズの前に物を置いて光をさえぎらないでください。物が高温になり、破損や火災の原因となります。 ● 上記を警告するために、プロジェクター本体に次の図記号を表示しています。 
 禁止	<p>プロジェクターの清掃時</p> <ul style="list-style-type: none"> ● レンズやキャビネットなどに付着したほこりの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。火災の原因となります。
 必ず行う  禁止	<p>ケーブルカバーについて（別売品）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ケーブルカバーを取り付け後、必ずネジ止めしてください。確実に固定されていないと、ケーブルカバーが外れてけがをするおそれがあります。また、落下してケーブルカバーが破損する原因となります。 ● 電源コードを束ねてケーブルカバー内に収納しないでください。電源コードを束ねると火災の原因となります。 ● ケーブルカバーを持っでの移動や無理な力を加えることはしないでください。ケーブルカバーが破損しけがをするおそれがあります。
 禁止	<p>極めて高い信頼性を必要とする業務に使用しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生命維持にかかわる医療機器などの人命に直接かかわる業務や、航空機、原子力設備などの極めて高い信頼性を必要とする業務には使用できません。

⚠ 注意

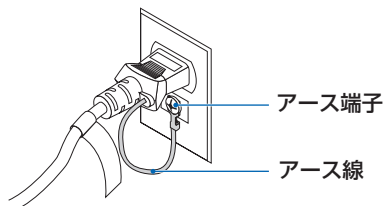
電源について



必ず行う

アース線を接続する

- このプロジェクターは電源コードのアース線をアースに接続することを前提に設計されているアースつき 2 芯プラグ機器です。
機器の安全確保のため、電源コードのアース線を、コンセントのアース端子に接続し、機器のアースを確実に接続してご使用ください。
アースを接続しないと感電するおそれがあります。
- プロジェクターとコンピューター（信号源）は必ず同じアースに接続してください。
プロジェクターとコンピューター（信号源）を離れた場所のアースに接続すると、アース電位の変動により、発火・発煙の原因となることがあります。
- アース工事は専門業者にご依頼ください。
- 必ず電源プラグをコンセントに差し込む前にアース線を接続してください。また、アース線を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後にアース線を外してください。



必ず行う



ぬれた手で
さわらない



プラグを抜く

電源コードの取り扱い

- プロジェクターの AC IN 端子に電源コードを接続する際は、コネクターを奥までしっかり差し込み、必ず電源コードストッパーを使って固定してください。電源コードの接続がゆるむと、火災・感電の原因となるおそれがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- プロジェクターをお手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- プロジェクターを移動する場合は、電源を切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルを外してください。
- 長期間、プロジェクターを使用しないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意

設置について



必ず行う

レンズユニットは落下防止用ワイヤーで固定する

- 天吊りなど、本機を高所から吊り下げて設置するような場合は、落下防止用ワイヤー（市販品）を使ってレンズユニットを固定してください。固定しないと、レンズユニットが外れた場合に落下するおそれがあります。

使用について



禁止

過電圧が加わるおそれのあるネットワークには接続しない

- プロジェクターの Ethernet/HDBaseT ポートおよび LAN ポートは、過電圧が加わるおそれのないネットワークに接続してください。Ethernet/HDBaseT ポートおよび LAN ポートに過電圧が加わると、感電の原因となることがあります。



必ず行う

レンズシフト、フォーカス、ズームの操作

- レンズシフト、フォーカス、ズームはプロジェクターの後ろまたは横から調整してください。前面で調整すると強い光が目に入り、視力障害の原因となります。
- レンズシフト動作中は、レンズの周囲に手を近づけないでください。キャビネットとレンズユニットの隙間に指を挟むおそれがあります。



禁止

電池の取り扱い

- 電池の取り扱いには注意してください。火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
 - ・ 電池をショート、分解、火に入れたりしない。
 - ・ 指定以外の電池は使用しない。
 - ・ 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
 - ・ 電池を入れるときは、極性（+と-の向き）に注意し、表示どおりに入れる。
- 電池を廃棄する際は、販売店、または自治体に問い合わせてください。



禁止



高温注意

通風口について

- プロジェクターの通風口をふさがないでください。またプロジェクターの下に紙や布などのやわらかい物を置かないでください。火災の原因となることがあります。プロジェクターを設置する場所は周囲から適当な空間をあけてください。（→ [22 ページ](#)）
- 投写中および投写終了直後は、排気口付近をさわらないでください。排気口付近が高温になる場合があり、やけどの原因となることがあります。

注意



禁止

プロジェクターの持ち運び

- プロジェクターを持ち運ぶときに、レンズ部分に手をかけないでください。フォーカスリングが回転し、プロジェクターが落下してけがの原因となることがあります。
- レンズユニットを外した状態で本機を持ち運ぶときに、レンズの取り付け部に手をかけないでください。また、接続端子部のくぼみに手をかけないでください。本機が破損して落下し、けがの原因となることがあります。
フィルターカバーを外したあとのくぼみを持って運ばないでください。キャビネットが破損してプロジェクターが落下してけがの原因となることがあります。
- 本機に別売のケーブルカバーを取り付けているとき、移動する場合は、ケーブルカバーを持たないでください。
ケーブルカバーが外れ本体が落下し、けがの原因となることがあります。



必ず行う

レンズの取り外し / 取り付け

- レンズユニットを取り外したり取り付けたりする際は、プロジェクターの電源を切り、電源コードを抜いてください。視力障害やけがの原因となることがあります。



必ず行う

温度や湿度が急激に変化する環境での使用、保存を避ける

- 以下の使用環境・保存環境で本機をご使用、保存ください。守らなかった場合は故障、火災や感電などの原因となることがあります。
動作温度：0 ～ 45 ℃ / 湿度：20 ～ 80 % (結露のないこと)
保存温度：-10 ～ 50 ℃ / 湿度：20 ～ 80 % (結露のないこと)

点検と清掃について



必ず行う

プロジェクターの点検・本体内部の清掃

- 1年に一度くらいは内部の清掃を NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターにご相談ください。プロジェクターの内部にほこりがたまつたまま、長い間清掃をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に清掃すると、より効果的です。なお、内部の清掃費用につきましては NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターにご相談ください。

レーザー光線の安全に関する注意事項



- 本製品は、レーザー製品の安全基準 JIS C 6802:2018、および IEC 60825-1 3rd Edition:2014 においてクラス 1 に分類されています。
- 本製品にはレーザーモジュールが内蔵されています。本書に記載した以外の手順による制御及び調整は、危険なレーザー放射の露光に結びつくことがあります。
またレンズ近くでのレーザー光への露光は、やけどを引き起こす可能性があります。

【内蔵されたレーザーの概要】

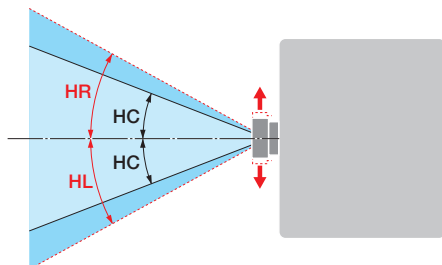
- ・ 波長：455 nm
- ・ 最大出力：176 W

レーザー光の放射範囲

下図は、レーザー光の最大の放射範囲を表しています。

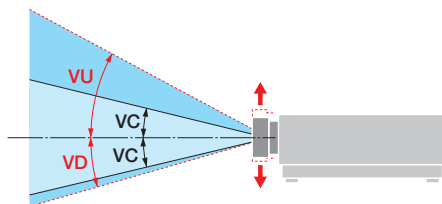
水平放射角：H（単位：度）

レンズユニット	ズーム	レンズの位置		
		右端	センター (参考値)	左端
		HR	HC	HL
NP11FL		31.8	31.8	31.8
NP12ZL	テレ	27.4	18.0	27.4
	ワイド	34.0	22.9	34.0
NP13ZL	テレ	15.1	9.6	15.1
	ワイド	28.3	18.6	28.3
NP14ZL	テレ	9.6	6.0	9.6
	ワイド	15.1	9.6	15.1
NP15ZL	テレ	6.4	4.0	6.4
	ワイド	9.7	6.1	9.7
NP40ZL	テレ	31.7	23.8	31.7
	ワイド	41.0	31.8	41.0
NP41ZL	テレ	13.0	9.4	13.0
	ワイド	27.9	20.7	27.9
NP43ZL	テレ	6.8	4.9	6.8
	ワイド	13.4	9.7	13.4
NP50ZL	テレ	42.0	32.7	42.0
	ワイド	48.2	38.6	48.2



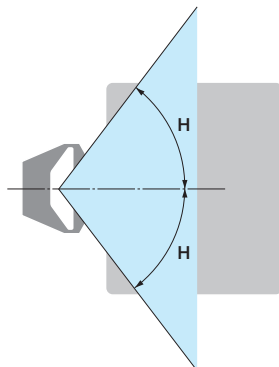
垂直放射角：V（単位：度）

レンズユニット	ズーム	レンズの位置		
		上	センター (参考値)	下
		VU	VC	VD
NP11FL		21.2	21.2	21.2
NP12ZL	テレ	24.0	11.5	13.7
	ワイド	30.1	14.8	17.6
NP13ZL	テレ	13.0	6.0	7.2
	ワイド	24.8	11.9	14.1
NP14ZL	テレ	8.3	3.8	4.5
	ワイド	13.1	6.0	7.2
NP15ZL	テレ	5.5	2.5	3.0
	ワイド	8.4	3.8	4.6
NP40ZL	テレ	28.9	15.4	18.3
	ワイド	37.8	21.2	24.9
NP41ZL	テレ	11.6	5.9	7.0
	ワイド	25.3	13.3	15.8
NP43ZL	テレ	6.1	3.0	3.7
	ワイド	12.0	6.1	7.3
NP50ZL	テレ	38.8	21.9	25.7
	ワイド	44.9	26.5	30.9



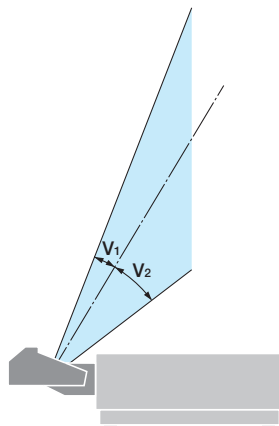
水平放射角：H（単位：度）

レンズ ユニット	レンズの位置	
	テレ	ワイド
NP44ML	—	55.8



垂直放射角：V（単位：度）

レンズ ユニット	テレ	ズーム	
		ワイド	
		V ₁	V ₂
NP44ML	—	10.7	24.6



リスクグループについて

本機は、レンズユニットとの組み合わせによって、IEC 62471-5:2015 規格のリスクグループ 2 またはリスクグループ 3 に分類されます。

リスクグループ 2 (RG2)



警告

明るい光源と同じように、ビームをのぞき込まないこと。 RG2 IEC 62471-5:2015.

リスクグループ 3 (RG3)



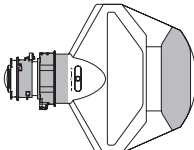
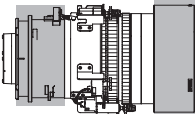
警告

- RG3 の場合、本機はプロフェッショナル用途となり、安全が担保される設置が必要です。そのため専門の設置業者が設置することが義務付けられていますので、必ず販売店へご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。視力障害などの原因となります。
- 目へのビームの直接被ばくを禁止します。 RG3 IEC 62471-5:2015
- プロジェクターのレンズをのぞかないでください。視力傷害の原因になります。
- 機器管理者（オペレーター）は、侵入禁止領域内でのビームへの被ばくを管理するか、侵入禁止領域内での観客の目への露光を避ける高さに本機を設置すること。
- プロジェクターの電源を入れる際は、プロジェクター本体の側面または背面（侵入禁止領域の外）で操作してください。

・本機を設置する前に確認してください

① レンズユニット型名

レンズユニットの型名は、下図の  で示した位置のいずれかに記載されています。

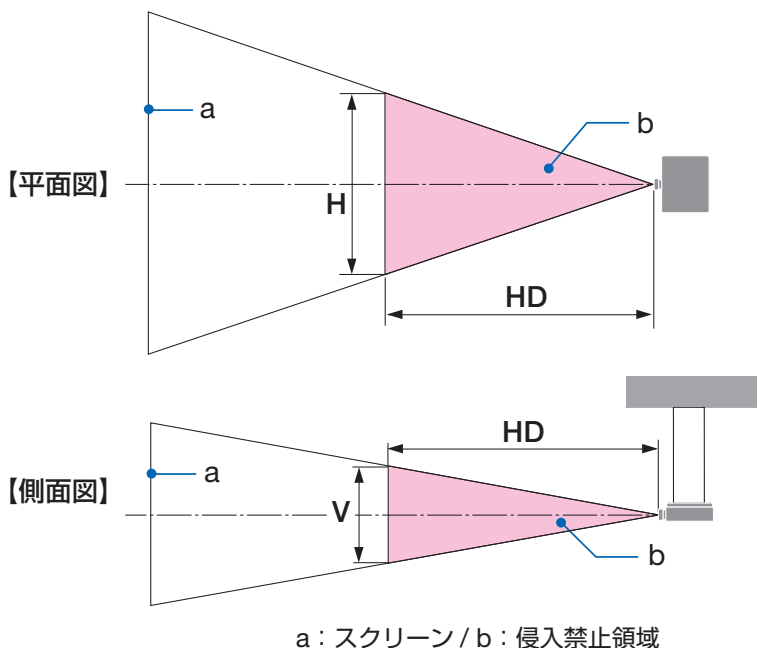
NP44ML の場合	NP44ML 以外の場合
	

② リスクグループ 3 に分類される組み合わせ

プロジェクター型名	レンズユニット型名
NP-PV800UL-WJL/NP-PV800UL-BJL	NP15ZL
NP-PV730UL-WJL/NP-PV730UL-BJL	NP43ZL

・リスクグループ 3 の場合の侵入禁止領域と注意事項

下図の範囲は、IEC 62471-5:2015 にてリスクグループ 3 (RG3) に分類された投写光の範囲（侵入禁止領域）を表しています。



NP-PV800UL-WJL/NP-PV800UL-BJL

レンズユニット		侵入禁止領域 (m)		
		HD(m)	水平 H	垂直 V
NP15ZL	ワイド	1.0	0.25	0.16
	テレ	1.5	0.23	0.15
NP43ZL	ワイド	0.7	0.26	0.16
	テレ	1.4	0.24	0.16

NP-PV730UL-WJL/NP-PV730UL-BJL

レンズユニット		侵入禁止領域 (m)		
		HD(m)	水平 H	垂直 V
NP15ZL	ワイド	0.9	0.23	0.14
	テレ	1.3	0.21	0.13
NP43ZL	ワイド	0.7	0.23	0.15
	テレ	1.2	0.21	0.13

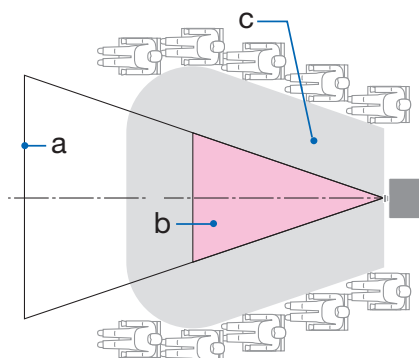
保安領域について

保安領域や物理的バリアを設けることで、人の目が侵入禁止領域に侵入することを防止できます。

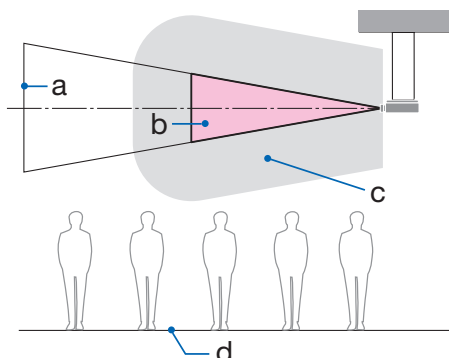
公共の施設など、機器管理者（オペレーター）が侵入禁止領域内への観客の侵入を制御できないときは、観客の安全を考慮した保安領域として、侵入禁止領域から 1m 以上の空間を確保することをおすすめします。また、プロジェクターを頭上に設置する場合は、床面と侵入禁止領域の距離を垂直方向に 3m 以上確保することをおすすめします。

保安領域を考慮した設置例

① 床置きまたはデスクトップ設置の例



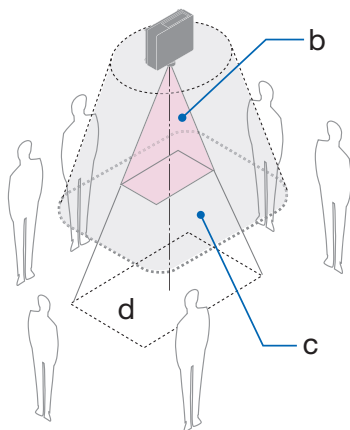
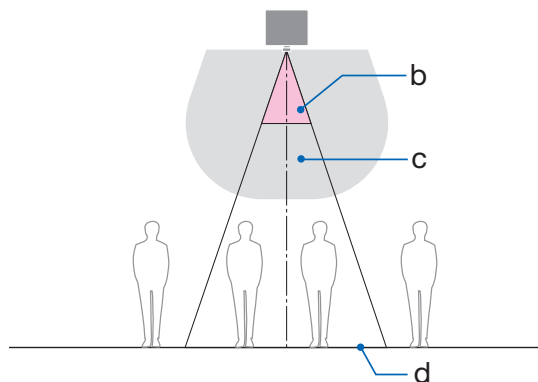
② 天吊り設置の例



注意

天吊り時に侵入禁止領域へ観客の侵入が想定される場合（例えば床面と保安領域の距離が2m以下の場合）は、その範囲への観客の立ち入りに制限が必要です。

③ 天井に設置して下向き投写の例



注意

床面と侵入禁止領域の間の保安領域を確保できない場合は、右図のように画面の周囲への観客の立ち入りに制限が必要です。

※ レンズシフトをお使いの場合は、画面が移動します。シフト量も考慮してください。



安全確保のため、以下の事項を順守してください。

設置について

- 設置場所のレイアウト設計の際には設置説明書に記載された安全への処置の実施を遵守すること。
- 危険回避のため、緊急時に電源プラグをコンセントから抜けるように、コンセントは手の届く範囲に設置すること。
もしくは、プロジェクターを停止できるようなデバイス（ブレーカー）を設けること。
- 前項の侵入禁止領域へ人の目が入らないような安全処置をすること。
- 設置する場所に適したレンズを選定し、レンズごとに設定された安全のための領域を確保する処置を適切にすること。
プロジェクターを動作させて光の調整作業などをする前に、必ず適切な処置を完了すること。
- 設置後にレンズごとに設定された安全確保の処置が適切に施行されているか妥当性を確認すること。
妥当性の確認は定期的を実施し、確認結果の記録を保管すること。

設置業者または販売店から機器管理者（オペレーター）に対して、必ず以下を実施してください

- 機器管理者（オペレーター）に対して、安全に関する教育を機器使用前に必ず実施すること。
- 機器管理者（オペレーター）に対して、動作前点検（投写光に対する安全の確認を含む）を必ず実施するように指示すること。
- 機器管理者（オペレーター）に対して、プロジェクター動作時には必ず機器管理者（オペレーター）が緊急時の対応が出来るような状態で管理するように指示すること。
- 機器管理者（オペレーター）に対して、設置説明書、点検記録をいつでも参照できるところへ保存・保管しておくよう指示すること。
各国、各地域の規制を遵守した状態であることを明確にしておくように指示すること。

電波障害に関する注意事項

この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI - A

警告：本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。

プロジェクターに接続する信号ケーブルは、フェライトコア付きやシールドタイプを使用してください。

それ以外のタイプのケーブルを使用した場合、受信障害の原因となることがあります。

設置や保管についての注意事項

● 次のような場所に設置したり、保管したりしないでください。

- ・ 振動や衝撃が加わる場所
動力源などの振動が伝わる所に設置したり、車両、船舶などに搭載すると、プロジェクターに振動や衝撃が加わって内部の部品が傷み、故障の原因となります。
- ・ 高圧電線や動力源の近く
妨害を受ける場合があります。
- ・ 強い磁界が発生する場所
故障の原因となります。
- ・ 屋外および湿気やほこりの多い場所
油煙や湯気の当たるような場所
腐食性のガスが発生する場所
キャビネットに油や薬品、水分などが付着した場合、キャビネットの変形またはひび割れ、金属部分の腐食、および故障の原因となります。

● 設置業者様へ

本機を設置する際は、当社ホームページに掲載している「設置説明書」をご覧ください。

- ① 落下防止のためプロジェクターおよび天井取付けユニットの荷重に長期間耐えるようにしてください。
- ② 設置は、天井取付けユニットの取扱説明書に従って、正しく確実に作業してください。
所定のネジや固定金具はすべて確実に取り付けてください。
- ③ 落下防止のために落下防止ワイヤーを使用してください。
 - ・ 市販の金具などを用いて建物や構造物の丈夫な箇所とプロジェクターのセキュリティバーを落下防止ワイヤーで接続してください。
 - ・ 市販の金具や落下防止ワイヤーはプロジェクターおよび天井取付けユニットの荷重に耐えられるように十分強度のある物をご使用ください。

- ・落下防止ワイヤーはプロジェクターに負荷をかけないように、少したるませるように設置してください。
- ・セキュリティバーの位置については、29 ページをご覧ください。

廃棄について

プロジェクターを廃棄する際は、お買い上げの販売店、または自治体にお問い合わせください。

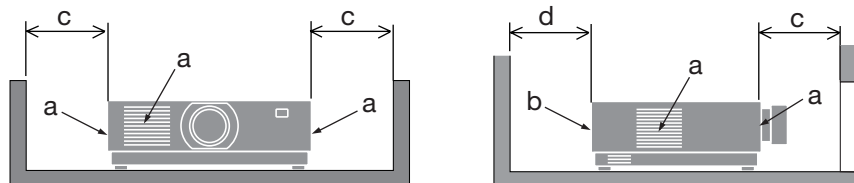
プロジェクターの性能確保のための注意事項

- レーザー光線のような強い光がレンズから入り込むと、故障の原因となります。
- たばこの煙・ほこりの多い場所で使用する場合、または長時間連続して（12 時間／日または 260 日／年を超えて）使用する場合は、あらかじめ NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターにご相談ください。
- コンピューターなどで同じ絵柄の静止画を長時間投写すると、その絵柄が画面に若干残りますが、しばらくすると消えます。これは液晶パネルの特性上発生するもので、故障ではありません。コンピューター側でスクリーンセーバーをお使いになることをおすすめします。
- 標高約 1600 m 以上の場所でプロジェクターを使用する場合は、必ずファンモードを「高地」に設定してください。「高地」に設定していないと、プロジェクター内部が高温になり、故障の原因となります。
- プロジェクターを高所（気圧の低い所）で使用すると、光学部品の交換時期が早まる場合があります。
- プロジェクターの持ち運びについて
 - ・ いったんレンズユニットを取り外し、レンズに傷が付かないように必ずレンズキャップを取り付けてください。また、プロジェクターには防塵キャップを取り付けてください。
 - ・ プロジェクターに振動や強い衝撃を与えないでください。
プロジェクターの故障の原因となります。
- チルトフットはプロジェクターの傾き調整以外の用途には使用しないでください。チルトフット部分を持って運んだり、壁に掛けて使用するなどの誤った取り扱いをすると、故障の原因となります。
- 投写レンズ面は素手でさわらないでください。
投写レンズ面に指紋や汚れが付くと、拡大されてスクリーンに映りますので、投写レンズ面には手を触れないでください。
- 投写中に電源コードを抜かないでください。プロジェクターの AC IN 端子や電源プラグの接触部分が劣化するおそれがあります。投写中に AC 電源を切断する場合は、ブレーカーなどを利用してください。
- リモコンの使用上の注意
 - ・ リモコン受光部に直接日光や強い照明が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
 - ・ リモコンとリモコン受光部との間に障害物があると、操作できないことがあります。

- ・電池が消耗してくると、操作できる距離が徐々に短くなります。早めに新しい電池に交換してください。
- ・蛍光灯などが近くにある場合は、動作しにくいことがあります。
- ・誤動作防止のために、エアコンやステレオコンポなど他の機器のリモコンと同時に使用しないでください。
- ・他の機器のリモコンによる影響が懸念される場合は、リモコンの識別 ID（リモコン ID またはコントロール ID）を設定するなどして誤動作を防止してください。
- ・プロジェクターから約 20 m 以内でプロジェクターのリモコン受光部に向けて操作してください。
- ・リモコンを落としたり、誤った取り扱いはしないでください。
- ・リモコンに水や液体をかけないでください。万一ぬれた場合は、すぐにふき取ってください。
- ・できるだけ熱や湿気の少ないところで使用してください。
- ・長期間リモコンを使用しないときは、乾電池を 2 本とも取り出してください。
- スクリーンへの外光対策をしてください。
スクリーンには、照明などプロジェクター以外からの光が入らないようにしてください。外光が入らないほど、ハイコントラストで美しい映像が見られます。
- スクリーンについて
ご使用のスクリーンに汚れ、傷、変色などが発生すると、きれいな映像が見られません。スクリーンに揮発性のものをかけたり、傷や汚れが付かないよう取り扱いにご注意ください。
- お手入れについて
「設置説明書」をご覧くださいのうえ、指示に従ってください。

設置する際の周囲との距離についての注意

- プロジェクターを設置する際は、下記のように周囲に十分な空間を作ってください。プロジェクターから出た高温の排気が再びプロジェクターに吸気される場合があります。また、エアコンから吹き出された風がプロジェクターに当たらないようにしてください。プロジェクターの温度制御で異常（温度エラー）を感知して自動的に電源が切れることがあります。

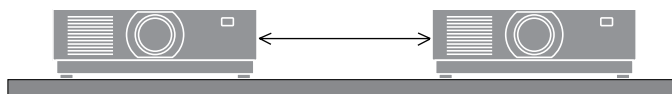


a：吸気口 / b：排気口 / c：20cm 以上 / d：30cm 以上

[注意]

- 上の図において、プロジェクターの上方には十分な空間があるものとします。

- 複数台のプロジェクターを並べて設置する場合は、吸気と排気に障害が生じないように、本体の周囲に十分な空間をあけてください。吸気と排気に障害が生じると、プロジェクターの内部温度が上昇し、故障の原因となります。



投写する映像の著作権について

- 営利目的または公衆に視聴させることを目的として、プロジェクターを使って映像を投写する場合、プロジェクターの機能を使ってオリジナルの映像に対して投写範囲を小さくしたり変形したりすると、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがあります。

アスペクト、台形補正、部分拡大などの機能を使用する場合はご注意ください。

本機のパワーマネジメント機能についてのお知らせ

本機は、消費電力を抑えるため、工場出荷時に以下のパワーマネジメント機能（1）、（2）を設定しています。本機を LAN やシリアルケーブルなどを經由して外部機器から制御する場合は、オンスクリーンメニューを表示して（1）、（2）の設定を変更してください。

- （1）スタンバイモード（工場出荷時の設定：ノーマル）
外部機器から制御する場合は「ネットワークスタンバイ」または「スリープ」に変更してください。
- （2）オートパワーオフ（工場出荷時の設定：1 時間）
外部機器から制御する場合は「オフ」に変更してください。

有線 LAN に関するご注意

- 本機の Ethernet/HDBaseT ポートおよび LAN ポートは公衆回線（電気通信事業者から貸与またはレンタルされたルーターを含む）に直接接続することを意図して設計されていません。そのため Ethernet/HDBaseT ポートおよび LAN ポートを公衆回線に直接接続することは電気通信事業法で禁止されています。

商標について

- ・ ViewLight、ビューライト、NaViSet、ProAssist、Virtual Remote は、シャープ NEC ディスプレイソリューションズ株式会社の商標または登録商標です。
- ・ HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface という語、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。



- ・ HDBaseT™および HDBaseT Alliance ロゴは、HDBaseT Alliance の商標です。



- ・ PLink 商標は、日本・米国その他の国や地域における登録商標または出願商標です。
- ・ ブルーレイは、Blu-ray Disc Association の商標です。
- ・ CRESTRON, CRESTRON ROOMVIEW は Crestron Electronics, Inc. の米国その他の国における登録商標または商標です。
- ・ Ethernet は、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標です。
- ・ Extron および XTP は RGB Systems, Inc. (RGB システムズ社) の米国における登録商標です。
- ・ その他取扱説明書に記載のメーカー名および商品名は、各社の登録商標または商標です。
- ・ Virtual Remote Toolは Nicom soft Ltd. の Win I2C/DDC ライブラリを利用しています。

本製品に含まれる GPL/LGPL 等適用ソフトウェアのライセンスについて

本製品には GNU General Public License (GPL)、GNU Lesser General Public License (LGPL)その他に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。当該ソフトウェアに関する詳細は、当社のホームページをご参照ください。

<https://www.sharp-nec-displays.com/dl/jp/pj/manual/lineup.html>

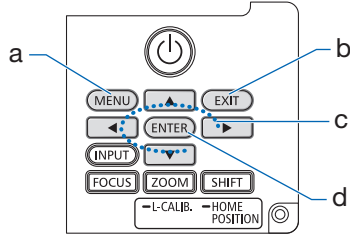
本書の表記について

マークの意味

[重要]	データが消えたり、もとに戻せない操作など、十分に注意していただきたいことを表しています。
[注意]	注意や制限事項を表しています。
[参考]	補足説明や役立つ情報を表しています。
→ 00 ページ	本書内の参照ページを表しています。

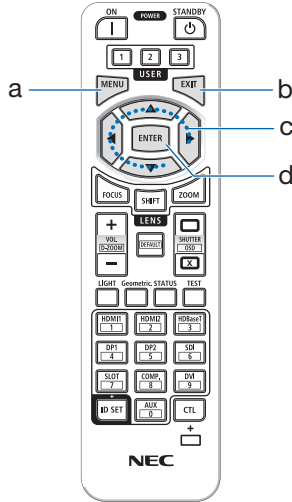
操作ボタンの表記例

●本体の操作ボタン



- a : MENU
- b : EXIT
- c : 上下左右の場合：▼▲◀▶
左右の場合：◀ / ▶
下の場合：▼
- d : ENTER

●リモコンの操作ボタン



[参考]

- 本書に載せている表示画面は、実際と多少異なる場合があります。

1. 製品概要、添付品、名称を確認する

1-1. 特長

● 液晶方式の高輝度・高解像度プロジェクター

本機は、表示解像度 1920 ドット× 1200 ライン（WUXGA）、アスペクト比 16:10 のプロジェクターです。

機種名	明るさ
NP-PV800UL-WJL/NP-PV800UL-BJL	8000 lm
NP-PV730UL-WJL/NP-PV730UL-BJL	7300 lm

● 長寿命レーザー光源を採用

レーザー光源は長寿命のため、光源の交換や調整などのメンテナンスが長期間不要になり、ローコストオペレーションを実現します。

● 設置場所に応じて選べるオプションレンズ

本機は、10 種類のオプションレンズに対応しています。様々な設置場所、投写方法に合わせたレンズが選択できます。

なお、工場出荷時はレンズが装着されていないので別途オプションレンズをお買い求めください。

● 電動レンズコントロールで容易な画面調整

本体背面の操作ボタンやリモコンの操作で、投写画面の位置調整（レンズシフト）ができます。

● 360° の設置、ポートレート投写が可能

本機は、垂直方向と水平方向 360° の、どの角度でも設置が可能です。

本機を傾けて設置する場合は、十分な強度のある金具を使用してください。

また、投写画面を 90° 傾けたポートレート投写も可能です。必ず専用のスタンドを製作して設置してください。

● 信号切り替え時の画面変更をスムーズに見せるシームレススイッチング機能

入力端子切り替え時、切り替え前の映像を保持することで、無信号状態を経ずに切り替え後の映像が映し出されます。

● 有線 LAN

LAN ポートと Ethernet/HDBaseT ポート（RJ-45）を装備しており、有線 LAN に接続してコンピューターから本機を制御することができます。

● 便利なアプリケーションソフトに対応

当社のアプリケーションソフト（NaViSet Administrator 2、ProAssist、Virtual Remote Tool など）に対応しています。有線 LAN で接続したコンピューターからプロジェクターを制御することができます。

- ・ NaViSet Administrator 2
プロジェクターの状態をモニタリングしたり、様々な機能を制御することができます。
- ・ ProAssist
プロジェクターの制御や、円柱面や球面等の特殊形状スクリーンに投写するときの歪み補正ができます。
- ・ Virtual Remote Tool
コンピューターの画面上に仮想のリモコンを表示して、プロジェクターの電源の入／切や信号切り替えなどの簡単な制御ができます。また、本機のバックグラウンドロゴを変更する機能があります。

各ソフトウェアは、当社のホームページからダウンロードしてください。

<https://www.sharp-nec-displays.com/dl/jp/pj/soft/lineup.html>

● CRESTRON ROOMVIEW、Extron XTP に対応

本機は CRESTRON ROOMVIEW に対応しています。コンピューターから、ネットワークに接続した複数の機器を管理・制御することができます。

また、本機を Extron 社の XTP トランスミッターに接続して、映像出力や制御ができます。

● スタンバイ時の消費電力が 0.16 ワットの省エネ設計

オンスクリーンメニューのスタンバイモードで「ノーマル」を設定すると、スタンバイ時の消費電力が 0.16 ワットになります。

ノーマル : スタンバイ時の消費電力が 0.16 ワットのモード

ネットワークスタンバイ : スタンバイ時の消費電力が 1.6 ワットのモード

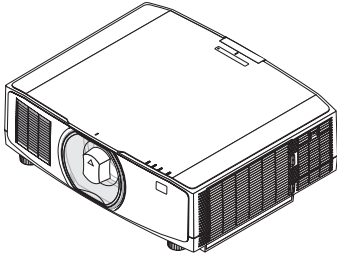
● ライトモードとカーボンメーター表示

本機は、使用目的などに合わせて、3 つのライトモードを選択できます。

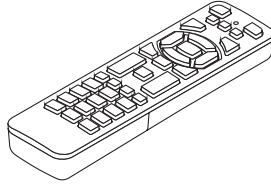
また、ライト調整で出力を下げて使用すると、消費電力を抑えることができます。このときの省エネ効果を CO₂ 排出削減量に換算して、電源を切るときの「確認メッセージ」およびオンスクリーンメニューの「情報」に表示します（カーボンメーター）。

1-2. 添付品の確認

添付品の内容をご確認ください。



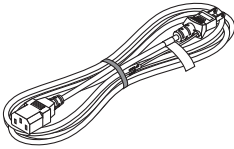
プロジェクター（本機）
防塵キャップ（24F53241）



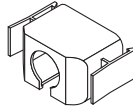
リモコン（7N901322）



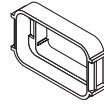
単 4 アルカリ乾電池
（リモコン用）2 本



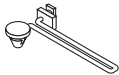
電源コード（アース付き）
（7N080123）



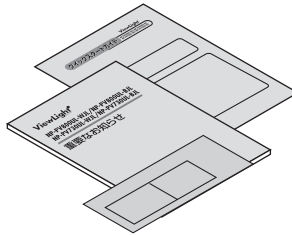
電源コードストッパー
（24F53221/24F53232）



レンズユニット盗難防止
用ネジ（24V00941）



ストラップ（フィルタカー
バーの落下防止用）
（24F54153）



クイックスタートガイド
（TINS-0007VW01）

重要なお知らせ
（TINS-0006VW01）

保証書

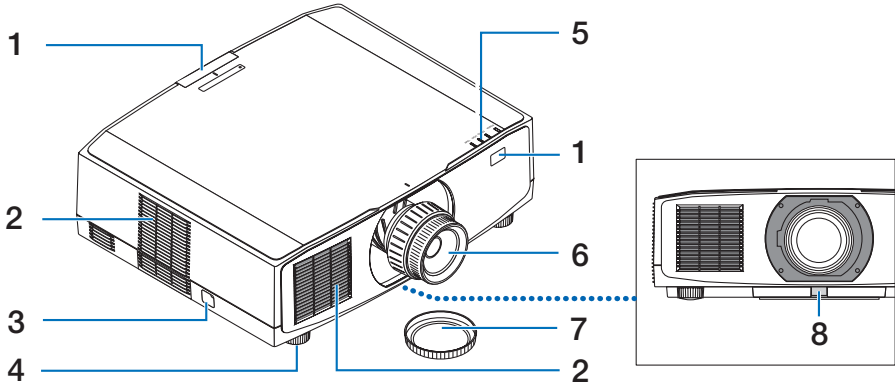
【参考】

- 万一添付品などが不足していたり破損している場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。
- 添付品の外観が本書のイラストと多少異なる場合がありますが、実用上の支障はありません。

1-3. 本体各部の名称

本体前部

レンズは別売です。レンズユニット NP13ZL を装着している状態で説明しています。



1 リモコン受光部

リモコンの信号を受ける部分です。本体の前面と背面の2箇所にあります。

2 吸気口

外気を取り込み、内部を冷却します。

3 セキュリティバー

盗難防止用チェーン（またはワイヤー）を取り付けます。
本機のセキュリティバーは、直径 4.6 mm の太さのものまで対応しています。

4 チルトフット

チルトフットを回して左右の傾きを微調整します。

5 インジケータ表示部

電源入／スタンバイなど本機の状態をインジケータの点灯／点滅で知らせます。

6 レンズ

ここから映像が投写されます。（レンズユニットは別売です。）

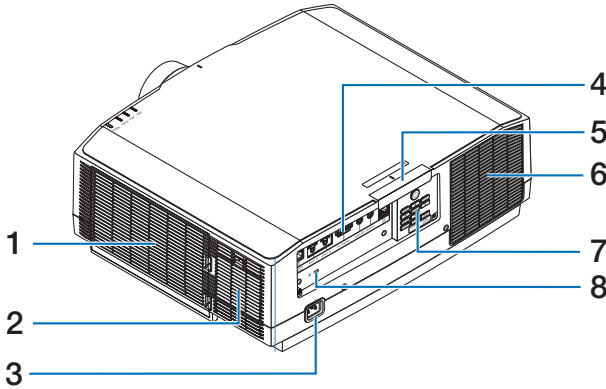
7 レンズキャップ（レンズユニットに装着）

レンズを保護します。

8 レンズリリースボタン

レンズユニットを取り外す際に使用します。

本体後部



1 吸気口 / フィルター

外気を取り込み、内部を冷却します。フィルターは、内部にほこりやゴミが入るのを防止します。

2 吸気口

外気を取り込み、内部を冷却します。

3 AC IN 端子

添付の電源コードを接続します。

4 接続端子部

各種映像信号や音声信号のケーブルを接続します。

5 リモコン受光部

リモコンの信号を受ける部分です。
本体の前面と背面の2箇所にあります。

6 排気口

内部の熱を排気します。


7 本体操作部

本機の電源の入／切や、投写する映像信号の切り替え操作などができます。

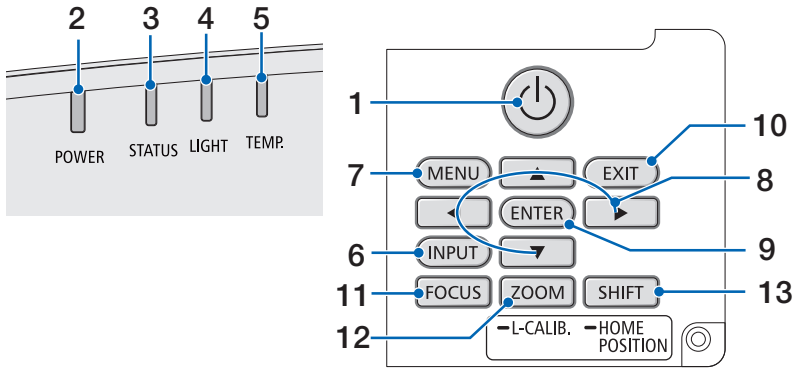
8 セキュリティスロット

盗難防止のためワイヤーケーブルを付ける際に使用します。
詳しくは下記の「参考」をご覧ください。

[参考]

- セキュリティスロットについて 
セキュリティスロットは、市販のケンジントン社製セキュリティケーブルに対応しています。製品については、ケンジントン社のホームページをご参照ください。
- 銘板ラベルは本体底面に貼付しています。

本体操作部 / インジケータ表示部



1 ㊦ ボタン（電源ボタン）

本機の電源を入／スタンバイ（待機状態）します。

電源を切る（スタンバイ状態）ときは、一度押すと画面に確認メッセージが表示されるので、続いてもう一度㊦ ボタンを押します。

2 電源インジケータ（POWER）

本機の電源の状態を表すインジケータです。

電源が入っているときは青色に点灯します。電源が切れているときは、状態によって緑色またはオレンジ色で点灯／点滅します。

詳しくは「インジケータ表示一覧」をご覧ください。（→ 66 ページ）

3 ステータスインジケータ（STATUS）

本体キーロック中に操作ボタンを押したときや、レンズのキャリブレーション中などに、点灯／点滅します。

詳しくは「インジケータ表示一覧」をご覧ください。（→ 66 ページ）

4 ライトインジケータ（LIGHT）

光源の状態をお知らせします。

5 温度インジケータ（TEMP.）

プロジェクター周囲の温度が高くなっていることをお知らせします。

6 INPUT ボタン

入力信号を選択します。

短く押すと、入力選択画面を表示します。

1 秒以上押すと、HDMI 1 → HDMI 2 → HDBaseT…の順に自動でチェックし、入力信号を検出すると、その信号を投写します。

7 MENU ボタン

各種設定・調整のオンスクリーンメニューを表示します。

8 ▼▲◀▶ボタン

- ・ オンスクリーンメニューを表示しているときに▼▲◀▶ボタンを押すと、設定・調整したい項目を選択できます。
- ・ テストパターン表示中は、パターンを変更します。
- ・ オンスクリーンメニューを表示していないときに◀/▶ボタンを押すと、本機の音声出力を調整できます。

9 ENTER ボタン

オンスクリーンメニュー表示中は、次の階層のメニューに進みます。

確認メッセージ表示中は、項目を決定します。

10 EXIT ボタン

オンスクリーンメニュー表示中は、前の階層のメニューに戻ります。メインメニューにカーソルがあるときは、メニューを閉じます。

確認メッセージ表示中は、操作を取り消します。

11 FOCUS ボタン

適応レンズユニット：NP40ZL/NP41ZL/NP43ZL/NP44ML/NP50ZL

フォーカス調整画面を表示して、投写画面のピントを合わせます。

12 ZOOM/L-CALIB. ボタン

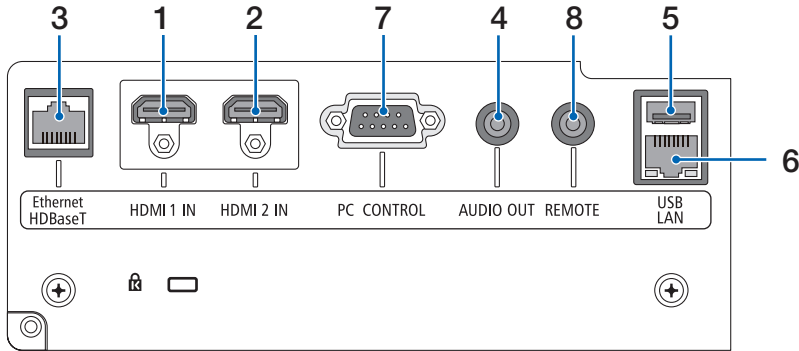
適応レンズユニット：NP40ZL/NP41ZL/NP43ZL/NP44ML/NP50ZL

- ・ 短く押すとズーム調整画面を表示します。投写画面の大きさを微調整します。
- ・ 長く（2 秒以上）押すと、取り付けたレンズユニットの調整範囲を校正します（キャリブレーション）。

13 SHIFT/HOME POSITION ボタン

- ・ 短く押すとレンズシフト画面を表示します。▼▲◀▶ボタンで調整します。
- ・ 長く（2 秒以上）押すとレンズシフト調整がホームポジションに戻ります。

接続端子部

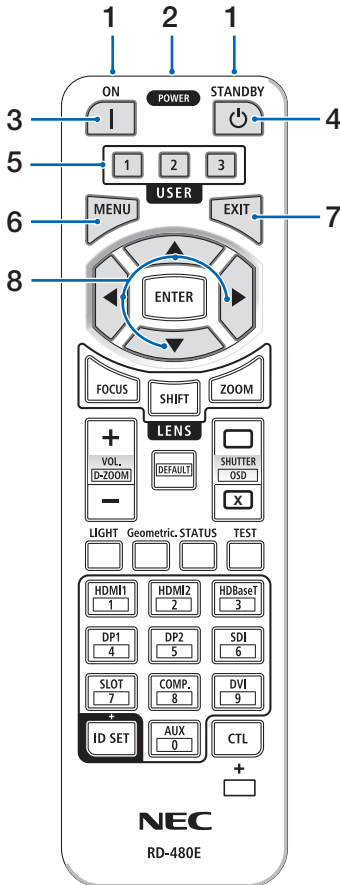


- 1 HDMI 1 入力端子 (タイプ A)**
コンピューターやブルーレイプレーヤーなどの出力端子と接続します。
- 2 HDMI 2 入力端子 (タイプ A)**
コンピューターやブルーレイプレーヤーなどの出力端子と接続します。
- 3 Ethernet/HDBaseT ポート (RJ-45)**
本機を市販の HDBaseT 対応の伝送機器に接続します。
- 4 音声出力端子 (ステレオ・ミニ)**
本機から投写されている映像の音声信号を出力します。
出力音量は◀ / ▶ボタンで調整できます。
- 5 USB ポート (USB) (タイプ A)**
5V/1.4A の電源を供給します。
- 6 LAN ポート (LAN) (RJ-45)**
本機を有線 LAN に接続します。接続すると本機の HTTP サーバー機能を利用し、コンピューターでウェブブラウザを使用して本機を制御することができます。
- 7 PC コントロール端子 (D-Sub 9 ピン)**
コンピューターで本機を操作するときに使用します。
- 8 リモート端子 (ステレオ・ミニ)**
本機を有線でリモコン操作する場合に使います。

[注意]

- リモート端子にリモコンケーブルが接続されているときは、赤外線でのリモコン操作はできません。
- リモコン受光部設定で HDBaseT を選択しており、かつ市販の HDBaseT 対応の伝送機器との接続時、伝送機器側でリモコン信号の伝送を設定している場合は赤外線でのリモコン操作ができません。ただし、伝送機器の電源を切っているときは赤外線でのリモコン操作ができます。

1-4. リモコン各部の名称



1 リモコン送信部

赤外線によるリモコン信号が送信されます。本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

2 リモコンケーブル接続端子

リモコンを有線で使用するとき、市販のΦ3.5 ステレオミニプラグ付きケーブル（抵抗なし）を接続します。

3 POWER ON ボタン (I)

スリープ状態またはスタンバイ状態のときに、本機の電源を入れます。

4 POWER STANDBY ボタン (⏻)

一度押すと電源オフ確認メッセージを表示します。もう一度 POWER STANDBY（または ENTER）ボタンを押すと、本機の電源が切れます。

5 USER1/2/3 ボタン

以下の機能が設定されています。

USER1:（本機では使用しません）

USER2: AV ミュート

映像と音声を一時的に消します。

USER3: 静止

投写されている動画が静止画になります。

6 MENU ボタン

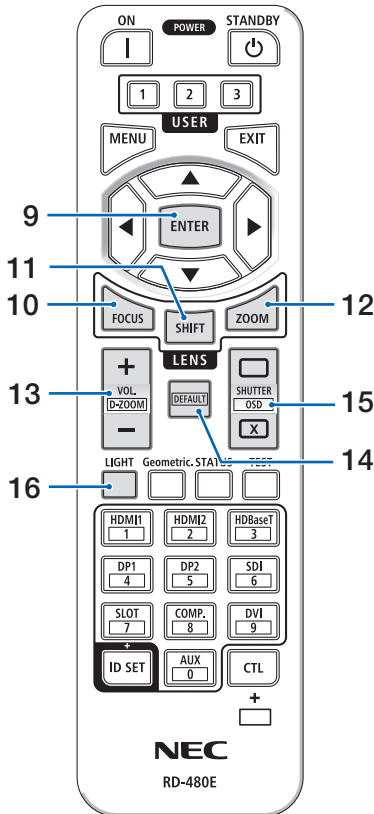
各種設定・調整のオンスクリーンメニューを表示します。

7 EXIT ボタン

オンスクリーンメニュー表示中は、前の階層のメニューに戻ります。メインメニューにカーソルがあるときは、メニューを閉じます。確認メッセージ表示中は、操作を取り消します。

8 ▼▲◀▶ ボタン

オンスクリーンメニュー操作や D-ZOOM ボタン、SHIFT ボタンと組み合わせて使用します。
・テストパターン表示中は、パターンを変更します。



9 ENTER ボタン

オンスクリーンメニュー表示中は、次の階層のメニューに進みます。

確認メッセージ表示中は、項目を決定します。

10 FOCUS ボタン

適応レンズユニット：

NP40ZL/NP41ZL/NP43ZL/NP44ML/NP50ZL

フォーカス調整画面を表示します。◀ / ▶ ボタンでレンズのフォーカスを調整します。

11 SHIFT ボタン

レンズシフト調整画面を表示します。▼▲◀▶ ボタンでレンズ位置を調整します。

12 ZOOM ボタン

適応レンズユニット：

NP40ZL/NP41ZL/NP43ZL/NP44ML/NP50ZL

ズーム調整画面を表示します。◀ / ▶ ボタンでレンズのズームを調整します。

13 VOL/D-ZOOM + / - ボタン

音声出力端子の音量を調整します。

CTL ボタンと同時に押すと、画面の拡大・縮小（もとに戻す）をします。

14 DEFAULT ボタン

（本機では使用しません。将来の拡張用です。）

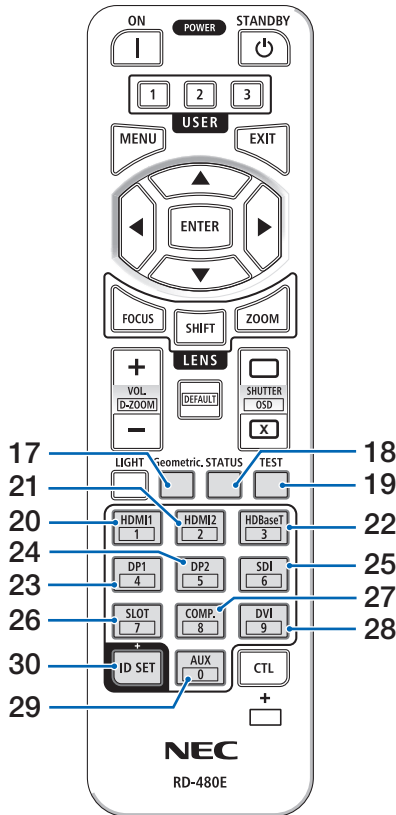
15 SHUTTER /OSD OPEN (□) /CLOSE (☒) ボタン

CLOSE ボタンを押すと、光源が消灯して投写光が一時的に消えます。OPEN ボタンを押すと戻ります。

CTL ボタンと同時に CLOSE ボタンを押すと、オンスクリーン表示を消します（オンスクリーンミュート）。CTL ボタンと同時に OPEN ボタンを押すと戻ります。

16 LIGHT ボタン

ライトモード画面を表示します。



17 Geometric. ボタン

オンスクリーンメニューの「幾何学補正」を表示します。投写画面の歪み調整に使用します。

18 STATUS ボタン

オンスクリーンメニューの情報の「使用時間」を表示します。

19 TEST ボタン

テストパターンを表示します。

20 HDMI1 ボタン

HDMI1 入力を選択します。

21 HDMI2 ボタン

HDMI2 入力を選択します。

22 HDBaseT ボタン

HDBaseT を選択します。

23 DP1 ボタン

(本機では使用しません)

24 DP2 ボタン

(本機では使用しません)

25 SDI ボタン

(本機では使用しません)

26 SLOT ボタン

(本機では使用しません)

27 COMP. ボタン

(本機では使用しません)

28 DVI ボタン

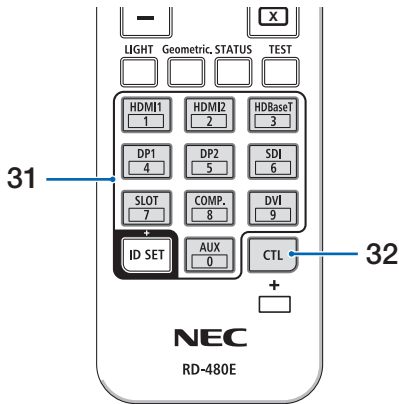
(本機では使用しません)

29 AUX ボタン

(本機では使用しません。将来の拡張用です。)

30 ID SET ボタン

複数台のプロジェクターを本機のリモコンで個別に操作するときのコントロール ID 設定に使用します。



31 数字（0～9）入力ボタン

複数台のプロジェクターを本機のリモコンで個別に操作する場合の ID 入力に使用します（コントロール ID 設定）。

ID SET ボタンを押したまま 0 ボタンを押すと、コントロール ID 設定を解除します。

32 CTL ボタン

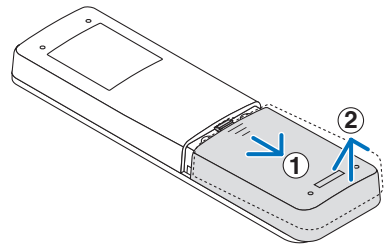
他のボタンと併用するための複合機能ボタンです。

[注意]

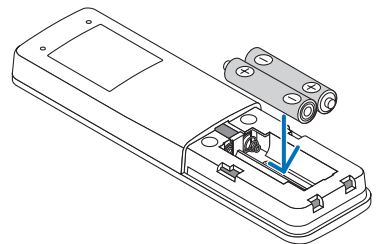
- リモコンの使用上の注意は 21 ページをご覧ください。

●電池の入れかた

1. リモコン裏面の電池ケースのふたをあける。

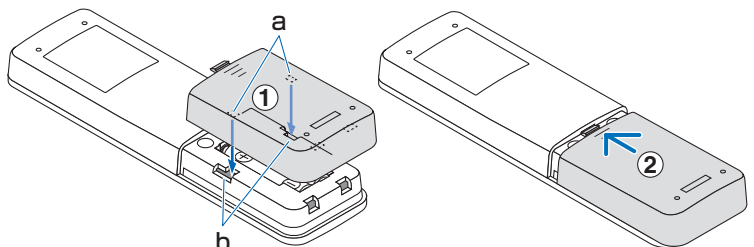


2. ケース内部に表示している＋、－の向きに合わせて単 4 アルカリ乾電池をセットする。



3. もとどおりにふたをする。

ふたのツメ①をケースのミゾ②に入れてからふたをしめます。

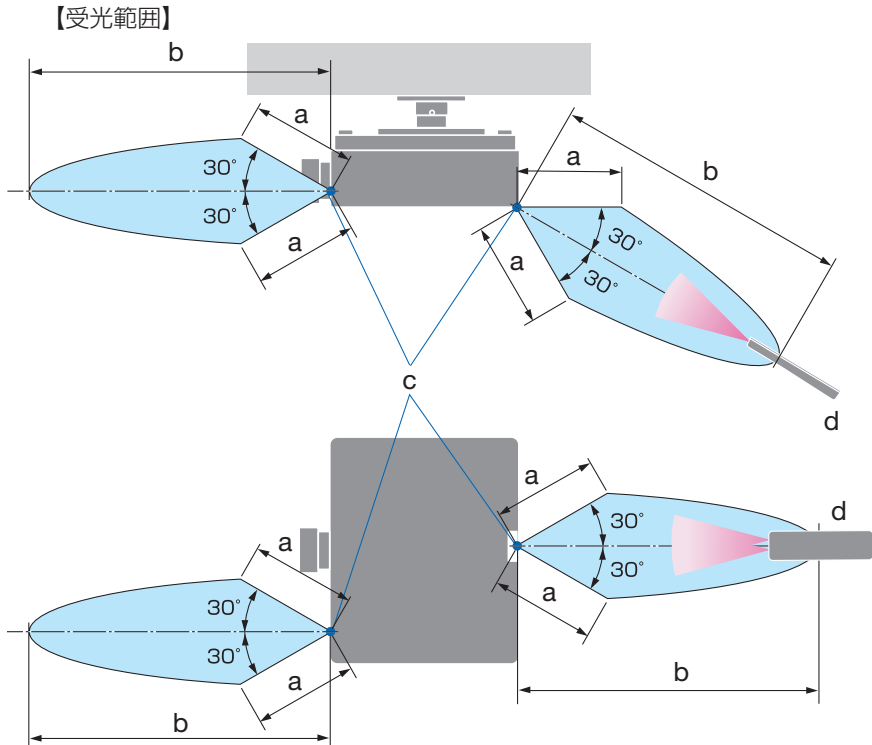


[注意]

- 乾電池を交換するときは、2 本とも同じ種類の単 4 アルカリ乾電池をお買い求めください。

●リモコンの有効範囲

リモコン送信部を本体のリモコン受光部に向けてリモコンを操作してください。おおよそ次の範囲内でリモコンの信号が受信できます。

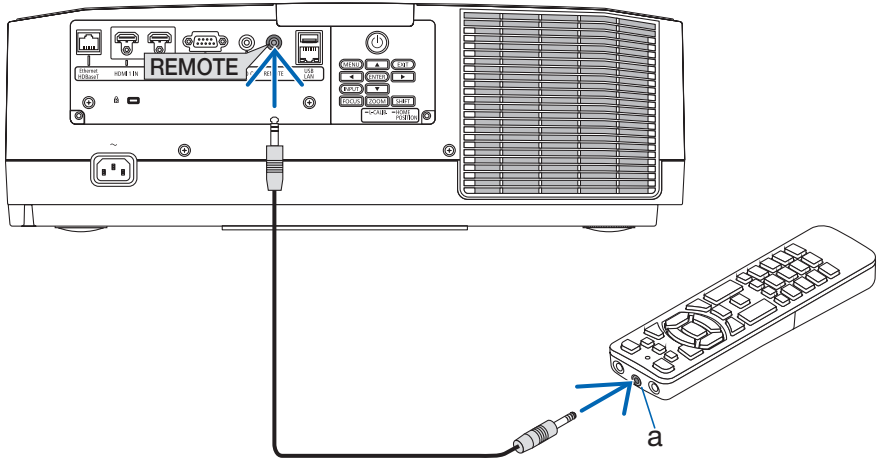


a: 約 7m / b: 約 20m / c: プロジェクターのリモコン受光部 / d: リモコン

(注) 有効範囲のイメージを表した図のため実際とは多少異なります。

●リモコンケーブルを使用する

本体のリモコン受光部とリモコンの間に遮へい物などがあるときや、受光範囲外でリモコン操作するときは、リモコンケーブルを使用して、本体とリモコンを接続してください。



a : リモコンケーブル接続端子

- ・ リモコンケーブルは、市販のΦ 3.5 ステレオミニプラグ付き（抵抗なし）を使用してください。
- ・ REMOTE 端子にリモコンケーブルが接続されているときは、赤外線でのリモコン操作はできません。
- ・ REMOTE 端子からリモコンへ電源は供給されません。有線で使用する場合でも、リモコンに乾電池を入れてください。

2. 映像を投写する（基本操作）

2-1. 映像を投写する流れ

ステップ 1	コンピューターと接続する／電源コードを接続する (→ 次ページ)
---------------	--

ステップ 2	本機の電源を入れる (→ 43 ページ)
---------------	---------------------------------------

ステップ 3	入力信号を選択する (→ 45 ページ)
---------------	---------------------------------------

ステップ 4	投写画面の位置と大きさを調整する (→ 47 ページ)
---------------	--

ステップ 5	映像や音声を調整する (→ 57 ページ)
---------------	--

ステップ 6	プレゼンテーションする
---------------	-------------

ステップ 7	本機の電源を切る (→ 58 ページ)
---------------	--------------------------------------

ステップ 8	あとかたづけ (→ 59 ページ)
---------------	------------------------------------

2-2. コンピューターと接続する／電源コードを接続する

1. コンピューターと接続する

ここでは、コンピューターとの基本的な接続を説明します。

コンピューターの HDMI 出力端子と本機の HDMI1 入力端子 (HDMI1 IN) または HDMI2 入力端子 (HDMI2 IN) を接続します。

2. 電源コードを接続する

添付の電源コードを使って、コンセントに本機を接続します。

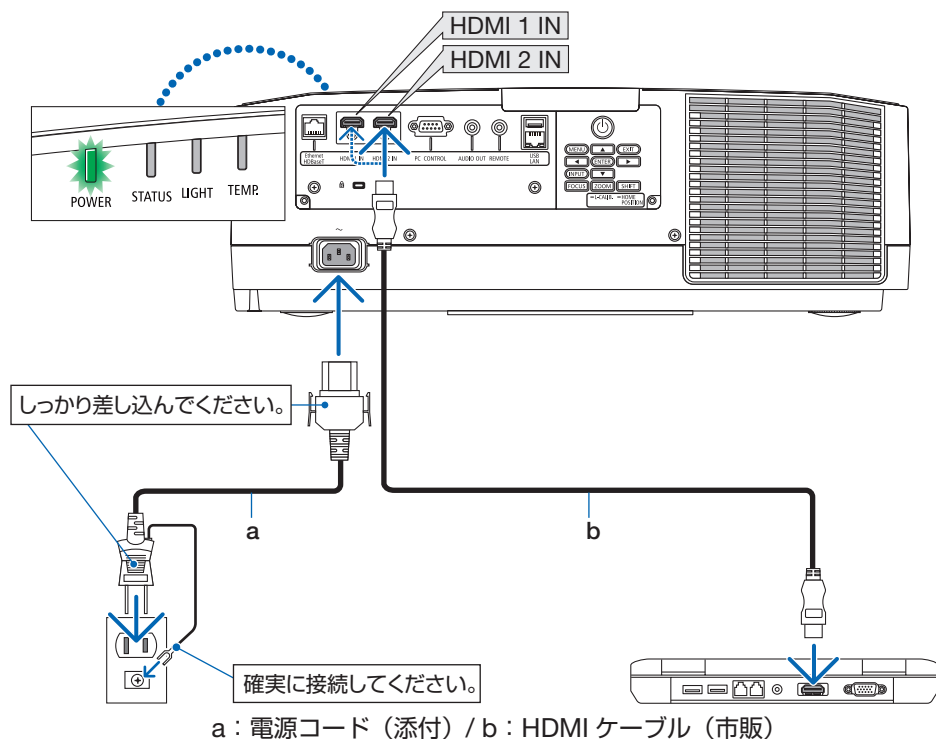
- ① 電源コードのコネクターを本機の AC IN 端子に差し込む。
- ② 電源コードのアース線を AC100V のコンセント（アース工事済み）のアース端子に接続する。
- ③ 電源コードのプラグを AC100V のコンセントに差し込む。



注意

- 本機は電源コードのアース線をアースに接続することを前提に設計されているアースつき 2 芯プラグ機器です。
機器の安全確保のため、電源コードのアース線を、コンセントのアース端子に接続し、機器のアースを確実に接続してご使用ください。アースを接続しないと感電するおそれがあります。
- プロジェクターとコンピューター（信号源）は必ず同じアースに接続してください。
プロジェクターとコンピューター（信号源）を離れた場所のアースに接続すると、アース電位の変動により、発火・発煙の原因となることがあります。
- アース工事は専門業者にご依頼ください。
- 必ず電源プラグをコンセントに差し込む前にアース線を接続してください。また、アース線を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後にアース線を外してください。
- 本機の AC IN 端子に電源コードを接続する際は、コネクターを奥までしっかり差し込み、必ず電源コードストッパーを使って固定してください。電源コードの接続がゆるむと、火災・感電の原因となるおそれがあります。

電源コードを接続すると、本機の電源インジケーターが点灯します。



- HDMI ケーブルは、認証済みの HIGH SPEED ケーブルを使用してください。
- 本体の AC IN 端子に接続した電源コードのコネクターが抜け落ちないように、カチッと音がして電源コードストッパーが固定されるまで押し込んでください。



注意

電源を切ったときは、一時的に本体が高温になることがあります。取り扱いに注意してください。

[注意]

- コネクターが固定された状態で電源コードを引っ張ると、本体が落下して破損するおそれがあります。

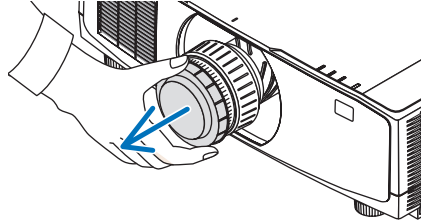
2-3. 本機の電源を入れる



警告


プロジェクターは強い光を投写します。
電源を入れる際は、プロジェクター本体の側面または背面（侵入禁止領域の外）で操作してください。また、投写範囲内にレンズを見ている人がいないことを確認してください。

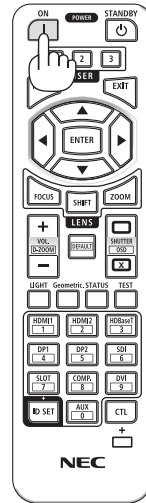
1. レンズキャップを取り外す。



2. POWER ON ボタンを押す。

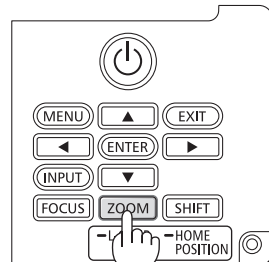
電源インジケータが緑色の点灯から青色に変わり点滅し始めます。その後、スクリーンに映像が投写されます。

- ・ 本体で操作する場合は、 ボタンを押します。
- ・ 信号が入力されていないときは、青い画面（ブルーバック）が表示されます（工場出荷時のメニュー設定時）。
- ・ 映像がぼやけている場合は、画面のフォーカスを合わせてください。（→ 50 ページ）



【参考】

- 「セキュリティロック中です。」が表示されたときは、セキュリティキーワードが設定されています。
- ・ 別売のレンズユニットを本機に取り付けたとき、またはレンズユニットを交換したときは、本体の ZOOM/L-CALIB. ボタンを長く（2 秒以上）押して、「キャリブレーション」を実行してください。
キャリブレーションにより、レンズの調整範囲を校正します。
また、レンズシフトの動作に異常が発生したときも、「キャリブレーション」を実行してください。

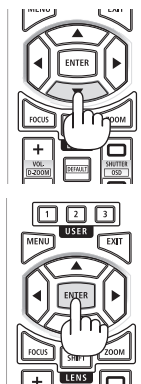


- ・ご購入後はじめて電源を入れたときは LANGUAGE 画面が表示されます。次のように操作して「日本語」を選択してください。
- ・誤って「日本語」以外を選択した場合は、オンスクリーンメニューを表示して「言語」を変更することができます。



- ① ▼▲◀▶ ボタンを押して、カーソルを「日本語」に合わせる。

- ② ENTER ボタンを押す。
オンスクリーンメニューの表示が日本語に設定され、オンスクリーンメニューが消えます。



[注意]

- 本機の電源が入っている間は、レンズからレンズキャップを外しておいてください。高温になりレンズキャップが変形します。
- 次のような場合は、POWER ON ボタンを押しても電源が入りません。
 - ・ 内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待って（内部の温度が下がって）から電源を入れてください。
 - ・ POWER ON ボタンを押している間にステータスインジケータがオレンジ色に点灯する場合は本体キーロックが設定されています。本体キーロックを解除してください。
- 電源インジケータが青色で短い点滅をしているときは STANDBY ボタンを押しても電源は切れません（青色で長い点滅はオフタイマーを設定していますので電源は切れます）。

2-4. 入力信号を選択する

投写する信号を自動検出する

1. 本機に接続しているコンピューターやブルーレイプレーヤーなどの電源を入れる。

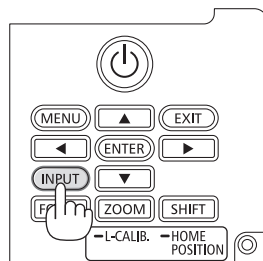
ブルーレイプレーヤーなどの映像を投写するときは、再生（PLAY）操作をしてください。

2. INPUT ボタンを 1 秒以上押す。

HDMI 1 → HDMI 2 → HDBaseT の順に自動でチェックし、入力信号を検出すると、その信号を投写します。

・ 短く押すと、入力端子画面が表示されます。
▲ / ▼ ボタンを押して目的の入力端子に合わせて、ENTER ボタンを押すと入力切り替わります。

入力端子画面のメニュー表示を消すには MENU ボタンまたは EXIT ボタンを押します。

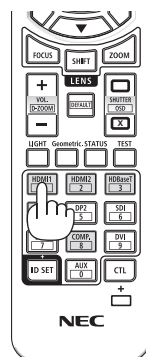


リモコンのダイレクトボタンを押して選択する

1. 本機に接続しているコンピューターやブルーレイプレーヤーなどの電源を入れる。

ブルーレイプレーヤーなどの映像を投写するときは、再生（PLAY）操作をしてください。

2. リモコンの HDMI1、HDMI2、HDBaseT ボタンを押す。

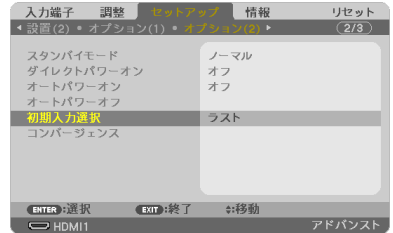


自動的に信号を選択する

入力信号を選択する操作を省略（自動化）することができます。

1. オンスクリーンメニューの「セットアップ」→「オプション (2)」→「初期入力選択」を選択する。

選択画面が表示されます。



2. 電源を入れたときに自動的に選択する信号を選択し、ENTER ボタンを押す。

次回本機の電源を入れたときに自動的に選択される信号として設定されます。



3. EXIT ボタンを 3 回押す。

オンスクリーンメニューが消えます。

4. 本機の電源を入れなおす。

手順 2 で設定した信号が自動的に投写されます。

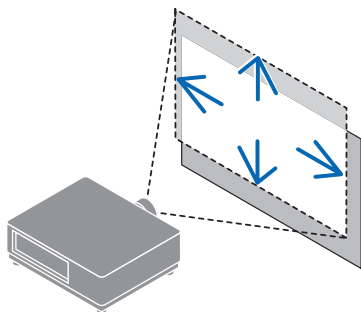
【参考】

- 信号が入力されていないときは、青い画面（ブルーバック）が表示されます（工場出荷時のメニュー設定時）。ブルーレイプレーヤーなどは再生（PLAY）操作をしてください。

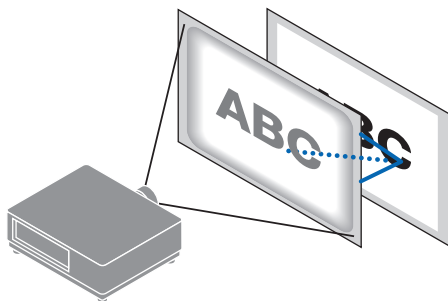
2-5. 投写画面の位置と大きさを調整する

レンズシフトやチルトフット、ズーム、フォーカスなどを操作して、投写画面の位置や大きさを調整します。

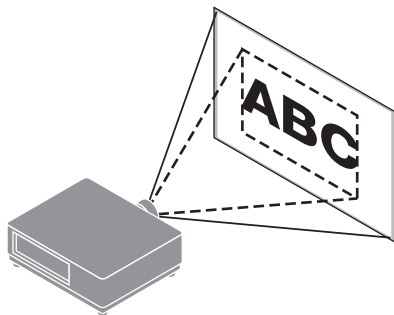
投写画面の上下・左右位置の調整
【レンズシフト】（→[次ページ](#)）



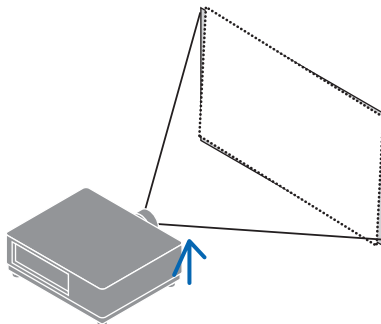
投写画面のフォーカス調整
【フォーカス】（→[50 ページ](#)）



投写画面の大きさの調整
【ズーム】（→[55 ページ](#)）



投写画面の傾き調整
【チルトフット】（→[56 ページ](#)）



※ここでは、本機に接続しているケーブル類を省略したイラストにしています。

投写画面の位置の調整（レンズシフト）



注意

- プロジェクターの後ろまたは横から調整してください。前面で調整すると強い光が目に入り、視力障害の原因となります。
- レンズシフト動作中は、レンズユニット取り付け部の周囲に手を近づけないでください。
キャビネットとレンズユニットの隙間に指を挟むおそれがあります。

1. SHIFT/HOME POSITION ボタンを押す。

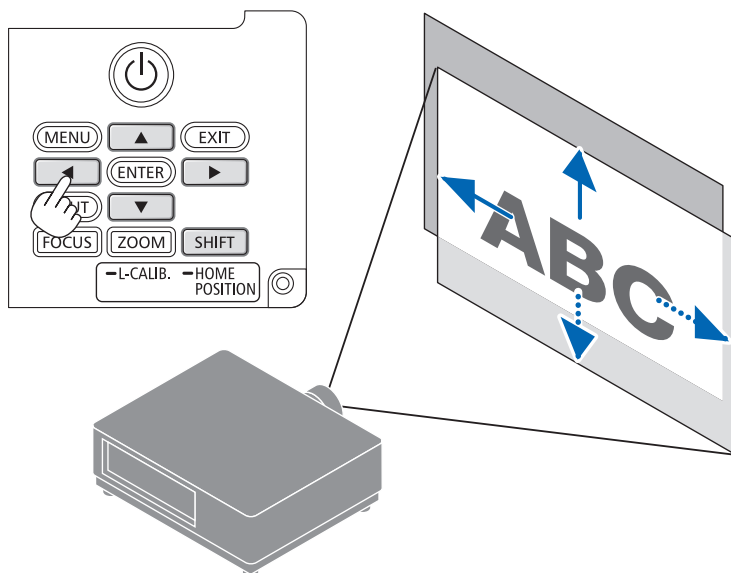
レンズシフト調整画面が表示されます。

- ・ リモコンで操作する場合は SHIFT ボタンを押します。



2. ▼▲◀▶ボタンを押す。

矢印の方向に投写画面が移動します。



レンズシフトをホームポジションに戻す場合

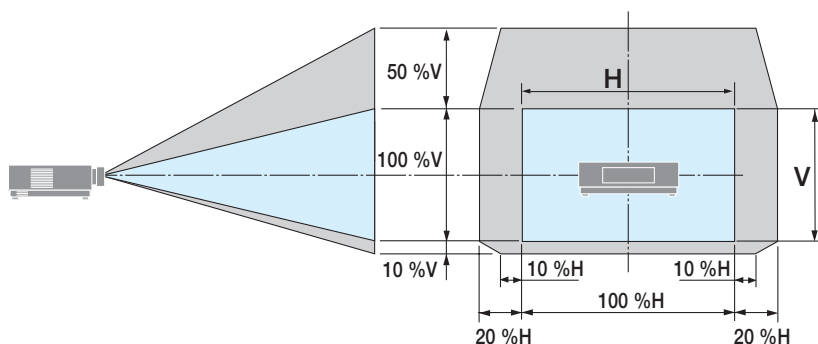
SHIFT/HOME POSITION ボタンを長押し（約 2 秒以上）すると本機のレンズ位置がホームポジション（ほぼ中心位置）に戻ります。

[注意]

- レンズシフトを斜め方向へ最大にすると、画面周辺が暗くなったり、影が出たりします。
- レンズユニット NP11FL を装着している場合は、ホームポジションで使用してください。その上で、必要な場合には、レンズシフトで投写画面の位置を微調整してください。
- レンズユニット NP50ZL を装着している場合は、同梱のサポートキットを使ってプロジェクター本体に固定してください。サポートキットのボルトをゆるめた状態で、レンズシフトで投写画面の位置を調整できます。
- レンズユニット NP44ML は、レンズシフトに対応していません。

[参考]

- 下図はレンズユニット NP41ZL のレンズシフト調整範囲（投写方式：デスク／フロント）を示しています。



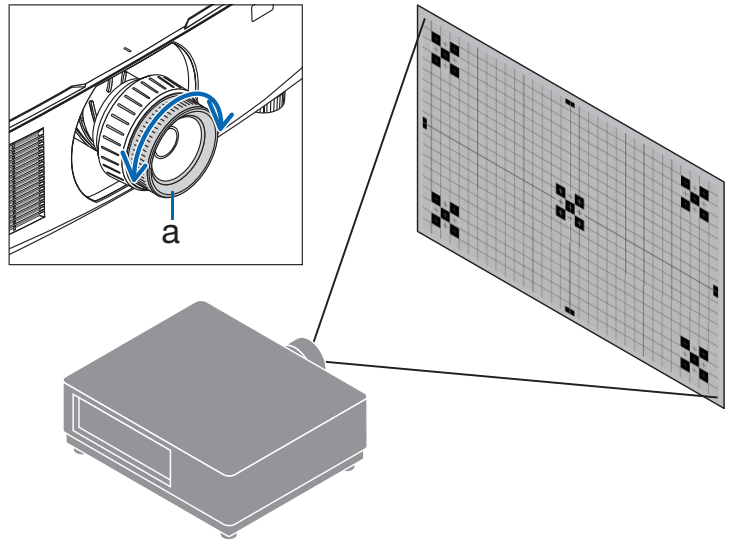
記号の意味：V は垂直（投写画面の高さ）、H は水平（投写画面の幅）を表し、レンズシフト範囲を高さおよび幅の比率で表しています。

投写画面のフォーカス合わせ

フォーカスは、テストパターンを投写した状態で 30 分以上経過したのちに調整することをおすすめします。

●適応レンズユニット：NP12ZL/NP13ZL/NP14ZL/NP15ZL（マニュアルフォーカス）

1. フォーカスリング③を左右に回してピントを合わせる。

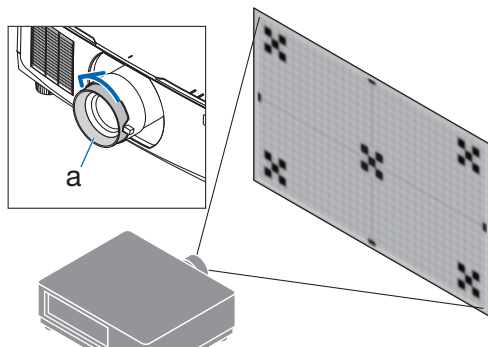


●適応レンズユニット：NP11FL（マニュアルフォーカス）

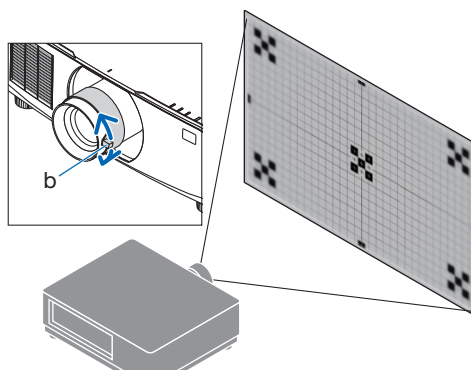
レンズユニット NP11FL はフォーカス合わせと画面歪みを調整します。

準備： 本体の SHIFT/HOME POSITION ボタンを長押し（約 2 秒以上）して、レンズ位置をホームポジションに戻してください。

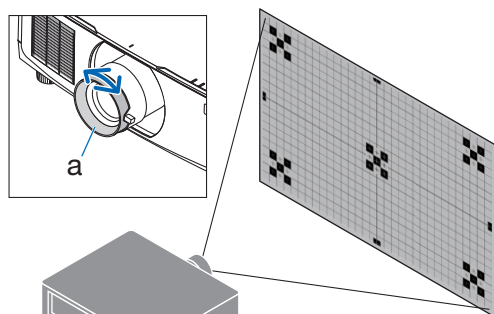
1. ディストーションリング①を左端に回す。



2. フォーカスレバー②を左右に回して画面中央のフォーカスを合わせる。



3. ディストーションリング①で画面の歪みを補正する
(併せて、画面周辺のフォーカスが合ってきます。)



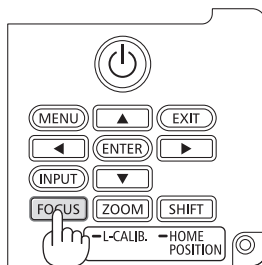
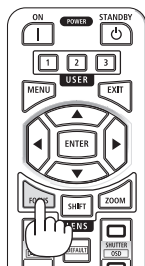
4. フォーカスレバーで④画面全体のフォーカスを合わせる。

※ 画面中央のフォーカスが合わない場合ディストーションリングを左に少し回すとフォーカスレバーで画面中央のフォーカスが取れるようになります。

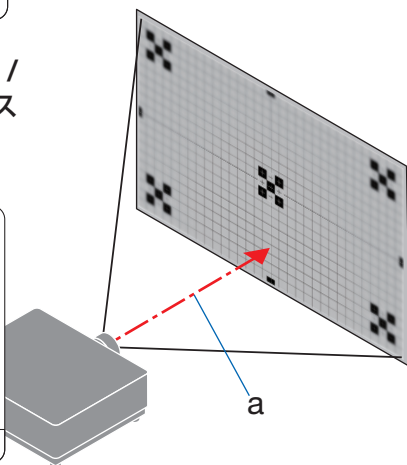
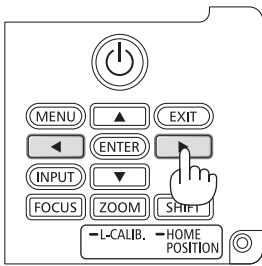
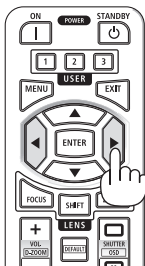
●適応レンズユニット：NP40ZL/NP41ZL（電動フォーカス）

1. FOCUS ボタンを押す。

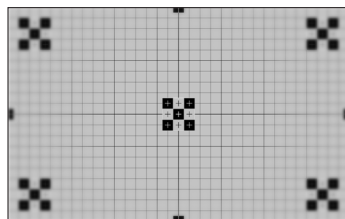
レンズフォーカス調整画面が表示されます。



2. 「中央」にカーソルが合った状態で、◀ / ▶ ボタンを押して光軸③付近のフォーカスを合わせる。



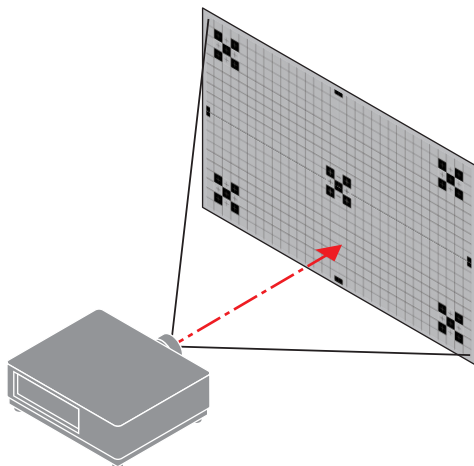
※ 図はレンズシフトを上方へ移動しているときの例です。画面の下側が調整されます。レンズがセンターにあるときは、画面の中心が調整されます。



3. ▼ ボタンを押して「周辺」にカーソルを合わせ、◀ / ▶ ボタンを押して画面周辺のフォーカスを合わせる。

このとき、2で調整した光軸回りのフォーカスは変わりません。





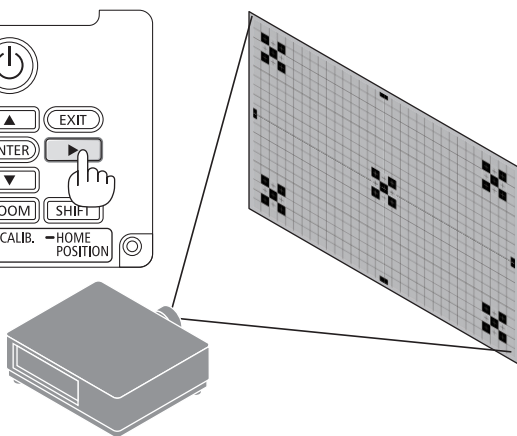
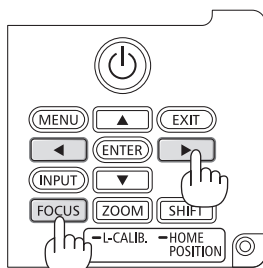
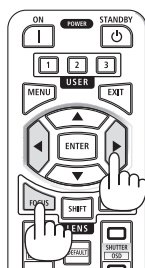
●適応レンズユニット：NP43ZL/NP50ZL（電動フォーカス）

1. FOCUS ボタンを押す。

レンズフォーカス調整画面が表示されます。

◀ / ▶ ボタンを押して、フォーカス（画面のヒント）を調整します。

・「周辺」のフォーカス調整は無効です。



●適応レンズユニット：NP44ML（電動フォーカス）

- NP44ML は、別売のサポートキット（NP01LK）を使ってプロジェクター本体に固定する必要があります。

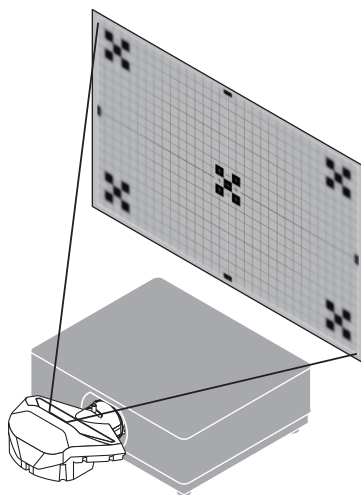
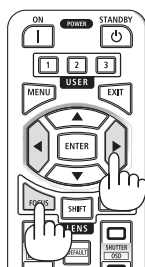
ここでは、サポートキットを省略したイラストにしています。

1. FOCUS ボタンを押す。

レンズフォーカス調整画面が表示されます。

◀ / ▶ ボタンを押して、画面中心のフォーカスを合わせます。

- ・ レンズフォーカス調整画面の「周辺」は無効です。画面周辺のフォーカス調整はズーム調整画面で調整します。

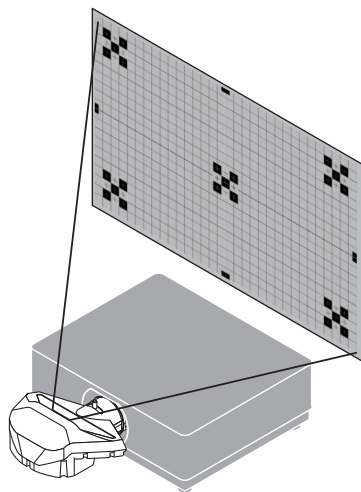
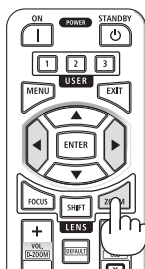


2. ZOOM/L-CALIB. ボタンを短く押す。

ズーム調整画面が表示されます。

- ・ リモコンで操作する場合は ZOOM ボタンを押します。

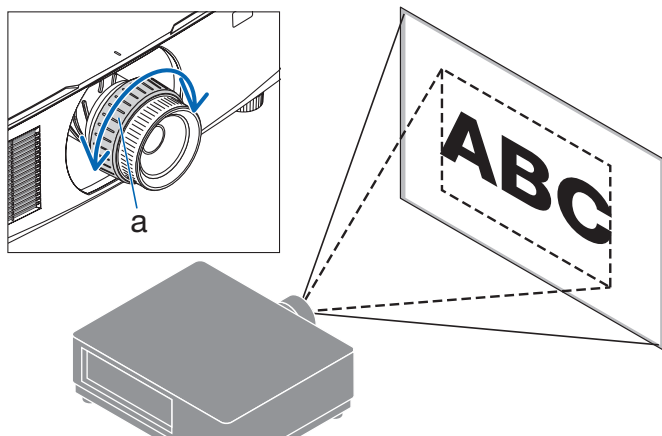
◀ / ▶ ボタンを押して画面周辺のフォーカスを合わせます。



投写画面の大きさの調整

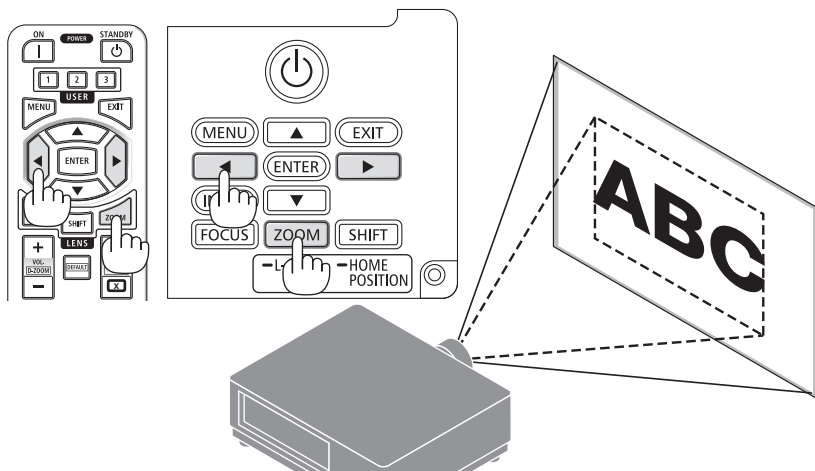
●適応レンズユニット：NP12ZL/NP13ZL/NP14ZL/NP15ZL （マニュアルズーム）

1. ズームレバーまたはズームリング①を左右に回す。



●適応レンズユニット：NP40ZL/NP41ZL/NP43ZL/NP50ZL （電動ズーム）

1. ZOOM/L-CALIB. ボタンを短く押す。
ズーム調整画面が表示されます。
・リモコンで操作する場合は ZOOM ボタンを押します。
◀ / ▶ ボタンを押して、ズームを調整します。

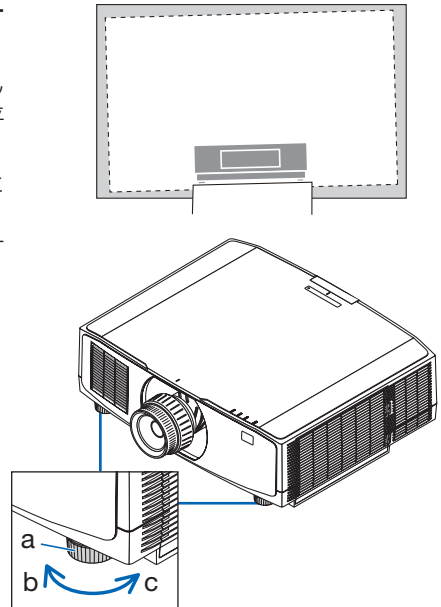


投写画面の傾き調整（チルトフット）

1. 左右のチルトフット①を回して調整する。

チルトフットを回すとチルトフットが伸縮します。どちらかのチルトフットを回して水平に調整します。

- ・チルトフットは、最大 20 mm 伸ばすことができます。
- ・チルトフットにより、本機を最大 4° 傾けることができます。



a: チルトフット / b: 伸びる / c: 縮む

【注意】

- チルトフットは 20mm 以上伸ばさないでください。20mm を超えるとチルトフットの取り付け部分が不安定になり、チルトフットが本体から外れます。
- チルトフットは、本機の投写角度調整以外の用途には使用しないでください。チルトフット部分を持って運んだり、壁に掛けて使用するなどの誤った取り扱いをすると、故障の原因となります。

2-6. 映像や音声を調整する

映像を調整する

オンスクリーンメニューの「調整」を表示して映像を調整します。

詳しくは「設置説明書」をご覧ください。

本機の音声出力を調整する

本機の音声出力端子から出力されている音声信号の音量を調整します。

【重要】

- 本機の音声出力端子に外部スピーカ機器を接続する場合は、外部スピーカ機器側の音量調整は最大で使用しないでください。外部スピーカ機器側の音量調整を上げすぎると、本機の電源を入れたり切ったりする際に突然大きな音が出る場合があります。聴力に悪影響を与えることがあります。

外部スピーカ機器の音量を調整する場合は、外部スピーカ機器側の音量調整を定格の半分以上に設定して、本機の音量調整で適切な音量に調整することをおすすめします。

●本体の操作ボタンで調整する

1. オンスクリーンメニューが表示されていないときに、◀ / ▶ ボタンを押す。

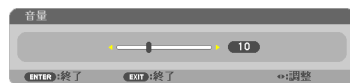
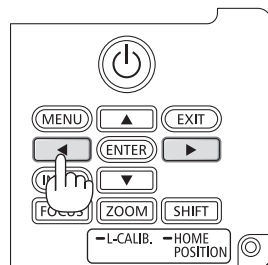
音量調整バーが表示されます。

◀側…音量が小さくなります。

▶側…音量が大きくなります。

【注意】

- オンスクリーンメニューが表示されているとき、リモコンのCTL ボタンを押したまま VOL/D-ZOOM + / - ボタンを押して画面を拡大しているときは、◀ / ▶ ボタンを使った音量調整はできません。



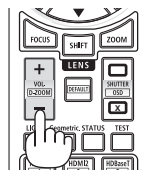
●リモコンを使って調整する

1. リモコンの VOL/D-ZOOM + / - ボタンを押す。

音量調整バーが表示されます。

+側…音量が大きくなります。


-側…音量が小さくなります。

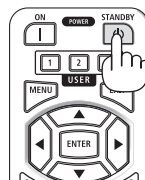


2-7. 本機の電源を切る

1. POWER STANDBY ボタンを押す。

画面に電源オフ確認メッセージが表示されます。

- ・電源オフ確認メッセージには今回の CO₂ 削減量を表示します。
- ・本体で操作する場合は、 ボタンを押します。



電源をオフします。
よろしいですか？




はい

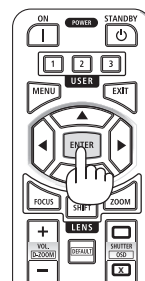
いいえ

今回のCO₂削減量
0.000[g-CO₂]

2. ENTER ボタンを押す。

光源が消灯し、電源が切れます。

- ・ENTER ボタンの代わりに、POWER STANDBY ボタンまたは本体の  ボタンを押しても、電源が切れます。
- ・電源を切らない場合は、 /  ボタンで「いいえ」を選んで ENTER ボタンを押します。



注意

投写中および冷却ファン回転中に AC 電源を切断したときは、一時的に本体が高温になることがあります。取り扱いに注意してください。

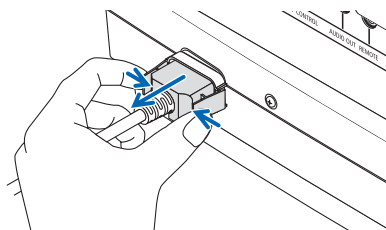
[注意]

- 電源インジケーターが青色で短い点滅をしているときは電源を切る操作をしても電源は切れません。
- レンズの移動中に電源を切る操作をしたときは、レンズの移動が終わってから電源が切れます。
- 投写中は、本機やコンセントから電源コードを抜かないでください。本機の AC IN 端子や電源プラグの接触部分が劣化するおそれがあります。投写中に AC 電源を切断する場合は、ブレーカーなどを利用してください。
- 各種の調整をして調整画面を閉じたあと約 10 秒間は、AC 電源を切断しないでください。この間に AC 電源を切断すると、調整値が初期化されることがあります。

2-8. あとかたづけ

1. 電源コードを取り外す。

電源コードストッパーの左右の突起を押しながら引いて取り外してください。



2. 各種信号ケーブルを取り外す。

3. レンズにレンズキャップを取り付ける。

4. 移動させるとき、チルトフットを伸ばしていたら、もとに戻す。

3. 付 録

3-1. 仕 様

型名			NP-PV800UL-WJL/ NP-PV800UL-BJL	NP-PV730UL-WJL/ NP-PV730UL-BJL
方式			三原色液晶シャッター投映方式	
主要 部品 仕様	液晶パネル	サイズ	0.76 型 (19.3 mm) × 3 枚、 アスペクト比 16:10	
		画素数 ^{(*)1}	2,304,000 画素 (1920 ドット× 1200 ライン)	
	投写レンズ		投写レンズ仕様 (別売) をご覧ください。(→ 62 ページ)	
		ズーム	マニュアル／電動	
		フォーカス	マニュアル／電動	
	レンズシフト	電動		
	光源	レーザーダイオード+蛍光体		
光学装置	ダイクロイックミラーによる光分離、クロスプリズムによる合成方式			
明るさ ^{(*)2} ^{(*)3}			8000 lm	7300 lm
画面サイズ (投写距離)			30 ～ 500 型 (投写距離はレンズユニットにより異なります)	
色再現性			10 ビット カラープロセッシング (約 10 億 7000 万色)	
走査周波数	水平	15 kHz、24 ～ 100 kHz		
	垂直	24, 25, 30, 48 Hz、50 ～ 85 Hz		
入 出 力 端 子	HDMI	映像入力	タイプ A × 2 LipSync、HDCP ^{(*)4} 、4K	
		音声入力	サンプリング周波数 32/44.1/48 kHz サンプリングビット 16/20/24 bit	
	Ethernet/ HDBaseT	映像入力	RJ-45 × 1、100BASE-TX、PJLink Class2、 LipSync、HDCP ^{(*)4} 、4K	
		音声入力	サンプリング周波数 32/44.1/48 kHz サンプリングビット 16/20/24 bit	
	音声出力	ステレオミニジャック × 1 (全信号共通)		
	USB	USB タイプ A × 1		
	LAN	RJ-45 × 1、10BASE-T/100BASE-TX、PJLink Class2		
制御入出力端子				
	PC コントロール	D-Sub 9 ピン × 1、RS232C		
	リモート	ステレオミニジャック × 1		
スピーカー		なし		
使用環境 ^{(*)5}		動作温度 :0 ～ 45 ℃		
		動作湿度 :20 ～ 80 % (ただし、結露しないこと)		
		保存温度 : - 10 ～ 50 ℃		
		保存湿度 :20 ～ 80 % (ただし、結露しないこと)		
		動作高度 : 0 ～ 2600 m (1600 ～ 2600 m はファンモード「高地」)		

型名	NP-PV800UL-WJL/ NP-PV800UL-BJL		NP-PV730UL-WJL/ NP-PV730UL-BJL
電源	AC 100 V 50/60 Hz ⁽⁶⁾		
消費電力	490 W		465 W
消費電力（スタンバイ時）			
スタンバイ モード	ノーマル時	0.16 W	
	ネットワーク スタンバイ時	1.6 W	
定格入力電流	6.1 A		5.8 A
外形寸法	499（幅）× 164（高）× 407（奥行）mm（突起部含まず） 503（幅）× 168（高）× 407（奥行）mm（突起部含む）		
質量	11.2kg（レンズユニット含まず）		

(※ 1) : 有効画素数は 99.99 %です。

(※ 2) : 別売のレンズユニット NP41ZL を装着し、ライトモードが「ノーマル」でライト調整が「100」、プリセットが「高輝度モード」のときの明るさです。ライト調整をすると明るさが低下します。また、プリセットで他のモードを選択すると明るさが多少低下します。

(※ 3) : JIS X6911:2021 データプロジェクターの仕様書様式にそって記載しています。測定方法、測定条件については、附属書 2 に基づいています。

(※ 4) : HDCP/HDCP 技術とは？

HDCP とは "High-bandwidth Digital Content Protection" の略称で、HDMI を経由して送信されるデジタルコンテンツの不正コピー防止を目的とする著作権保護用システムのことをいいます。HDCP の規格は、Digital Content Protection, LLC という団体によって、策定・管理されています。

本機の HDMI 1 および HDMI2 入力端子、HDBaseT ポートは、HDCP 技術を用いてコピープロテクトされているデジタルコンテンツを投写することができます。

ただし、HDCP の規格が変更された場合などは、プロジェクターが故障していなくても、HDMI 1 および HDMI2 入力端子、HDBaseT ポートの映像が表示されないことがあります。

映像 : DeepColor (ディープカラー : 色深度) : 8/10/12 ビット、LipSync

音声 : LPCM; チャンネル数 ; 2 ch、サンプリング周波数 : 32/44.1/48 kHz、サンプリングビット : 16/20/24 ビット

HDMI : HDCP 1.4 に対応

HDBaseT : HDCP 1.4 に対応

(※ 5) : 使用環境の温度により、本機の保護機能が働きます。

(※ 6) : 高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

・この仕様・意匠はお断りなく変更することがあります。

●投写レンズ仕様（別売）

NP11FL	マニュアルフォーカス (投写比 0.81 : 1、F2.3、f=13.2 mm)
NP12ZL	電動レンズシフト、マニュアルズーム、マニュアルフォーカス (投写比 1.16 ~ 1.52 : 1、F2.20 ~ 2.69、f=19.4 ~ 25.3 mm)
NP13ZL	電動レンズシフト、マニュアルズーム、マニュアルフォーカス (投写比 1.46 ~ 2.95 : 1、F1.70 ~ 2.37、f=24.4 ~ 48.6 mm)
NP14ZL	電動レンズシフト、マニュアルズーム、マニュアルフォーカス (投写比 2.90 ~ 4.68 : 1、F2.20 ~ 2.64、f=48.5 ~ 77.6 mm)
NP15ZL	電動レンズシフト、マニュアルズーム、マニュアルフォーカス (投写比 4.59 ~ 7.02 : 1、F2.20 ~ 2.70、f=76.6 ~ 116.5 mm)
NP40ZL	電動レンズシフト、電動ズーム、電動フォーカス (投写比 0.79 ~ 1.11 : 1、F2.0 ~ 2.5、f=13.3 ~ 18.6 mm)
NP41ZL	電動レンズシフト、電動ズーム、電動フォーカス (投写比 1.30 ~ 3.02 : 1、F1.7 ~ 2.0、f=21.8 ~ 49.8 mm)
NP43ZL	電動レンズシフト、電動ズーム、電動フォーカス (投写比 2.99 ~ 5.93 : 1、F2.2 ~ 2.6、f=49.7 ~ 99.8 mm)
NP50ZL	電動レンズシフト、電動ズーム、電動フォーカス (投写比 0.60 ~ 0.75 : 1、F1.9 ~ 2.1、f=10.2 ~ 12.8 mm)
NP44ML	電動フォーカス (投写比 0.32 : 1、F2.0、f=6.27 mm)

- ・ 投写比は 100 型の画面を投写する場合の値です。
- ・ NP11FL 装着時は、レンズ位置をホームポジションにして使用してください。その上で、必要な場合には、レンズシフトで投写画面の位置を微調整してください。
- ・ NP50ZL 装着時は、同梱のサポートキットを使ってプロジェクター本体に固定してください。サポートキットのボルトをゆるめた状態で、レンズシフトで投写画面の位置を調整できます。
- ・ NP44ML 装着時は、別売のサポートキット（NP01LK）を使ってプロジェクター本体に固定してください。レンズシフトには対応していません

3-2. 故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度接続や設定および操作に間違いがないかご確認ください。
それでもなお異常なときは NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターにお問い合わせください。

現象と確認事項

このようなとき	確認してください
電源が入らない	電源プラグがコンセントから抜けていませんか。
	内部温度が高くなっていませんか。内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待ってから電源を入れてください。
	標高約 1600 m 以上の高地で本機を使用していませんか。 高地で使用する場合はオンスクリーンメニューのファンモードで「高地」を選択してください。 高地で本機を使用する場合にファンモードで「高地」を選択していないと、温度プロテクターが働き、自動的に電源が切れることがあります。
	上記の電源コードの接続、本機の内部温度上昇などが原因として考えられない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして約 5 分間待って再び電源プラグをコンセントに接続してください。
使用中に電源が切れる	オンスクリーンメニューのオフタイマーまたはオートパワーオフを「オン」にしていますか。
映像が出ない	接続している入力を選んでいますか。本体の INPUT ボタンまたはリモコンの入力を選択するボタンを再度押してください。
	入力端子のケーブルが正しく接続されていますか。
	調整のコントラスト、明るさが最小になっていませんか。
	SHUTTER CLOSE ボタンが押されていませんか。

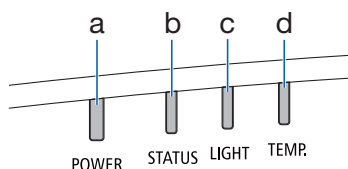
次ページへ続く

このようなとき	確認してください
映像が出ない	HDMI1 入力端子、HDMI2 入力端子の映像がうまく投写できない場合は次の点をご確認ください。 お使いのコンピューターに内蔵されているグラフィックボードのドライバーを再インストールください。または最新のバージョンアップを適用してください。 再インストール、最新のバージョンアップに関しては、コンピューター、グラフィックボードの取扱説明書を参照いただくか、コンピューターのサポート窓口にお問い合わせください。 なお、最新ドライバーや最新 OS は、お客様の責任においてインストールしていただきますようお願いいたします。これらインストールに起因するトラブル、不具合については一切の責任を負わないものとします。
	HDBaseT 対応伝送機器によっては信号が対応していない場合があります。また IR、RS-232C が対応できない場合があります。
	各設定が正しく調整・設定されていますか。
	それでも解決しない場合は、リセットをしてください。
	セキュリティが有効になっている場合は、本機の電源を入れたときに、あらかじめ登録しておいたセキュリティキーワードを入力しないと映像は投写されません。
	標高約 1600 m 未満であっても高地で使用している場合、温度プロテクターが働いて、自動的に消灯することがあります。そのときはファンモードを「高地」に設定してください。
映像が歪む	正しく設置されていますか。
	台形状に歪む場合は台形補正で調整してください。
映像がぼやける	レンズのフォーカスは合っていますか。
	投写画面と本機が正しい角度で設置されていますか。
	投写距離がフォーカスの範囲を超えていませんか。
	レンズシフトの移動量が保証範囲を超えていませんか
	レンズなどが結露していませんか 気温が低い所に保管しておいて温かい所で電源を入れると投写窓や内部の光学部が結露することがあります。このような場合は結露がなくなるまで数分お待ちください。
映像が乱れる	本機に接続している信号ケーブルが断線していませんか。
映像が突然暗くなった	室温が高いと、本機のプロtection機能が働いて、一時的に輝度（明るさ）が下がることがあります。 室温を下げてください。
水平または垂直方向に映像がずれて正常に表示されない	入力信号が対応している解像度、周波数になっていますか。

このようなとき	確認してください
リモコンで操作できない	リモコンのリモコン送信部を本体のリモコン受光部に向けていますか。
	リモコンの電池が消耗していませんか。新しい電池と交換してください。
	リモコンと本体のリモコン受光部との間に障害物はありませんか。
	リモコンの有効範囲を超えていませんか。
	コントロール ID 機能を設定している場合、リモコンの ID 番号とプロジェクターの ID 番号は一致していますか。コントロール ID を「オン」にすると、本機のリモコンから本機を操作できなくなります。
インジケーターが点滅する	インジケーター表示一覧をご覧ください。
本機の動作が不安定になる	電源プラグをコンセントから抜いてください。そして約5分間待って再び電源プラグをコンセントに接続してください。

3-3. インジケータ表示一覧



本体操作部の3つのインジケータが点灯、点滅しているときは、以下の説明を確認してください。



- a：電源インジケータ
- b：ステータスインジケータ
- c：ライトインジケータ
- d：温度インジケータ

●通常のインジケータ表示

POWER	STATUS	LIGHT	TEMP.	本機の状態
 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	主電源が切れている
 オレンジ色 (長い間隔の点滅 ^{*1})	 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	スタンバイ状態（スタンバイモードが「ノーマル」）
 オレンジ色（点灯）	 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	スタンバイ状態（スタンバイモードが「ネットワークスタンバイ」）
 緑色（点灯）	 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	スリープ状態
 青色（点灯）	 (消灯)	 緑色（点灯）	 (消灯)	電源オン状態（ライトモードが「ノーマル」）
 青色（点灯）	 (消灯)	 緑色 (長い点滅 ^{*2})	 (消灯)	電源オン状態（ライトモードが「静音」または「長寿命」）
(各状態)	 オレンジ色 (2回周期点滅 ^{*3})	(各状態)	 (消灯)	レンズキャリブレーション実行要求（画面にレンズキャリブレーション実行要求のメッセージを表示）
 青色（点灯）	 緑色（2回周期点滅 ^{*3} ）	(各状態)	 (消灯)	レンズキャリブレーション中
 青色（点灯）	(各状態)	 (消灯)	 (消灯)	シャッターが「閉」の状態（光源が消灯）
 青色（長い点滅 ^{*2} ）	 (消灯)	(各状態)	 (消灯)	オフタイマー有効状態（電源オン状態）

POWER	STATUS	LIGHT	TEMP.	本機の状態
 青色 (短い点滅※4)	 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	電源オン準備中

※1 1.5 秒点灯 / 7.5 秒消灯 のくり返し

※2 2.5 秒点灯 / 0.5 秒消灯 のくり返し

※3 0.5 秒点灯 / 0.5 秒消灯 / 0.5 秒点灯 / 2.5 秒消灯 のくり返し

※4 0.5 秒点灯 / 0.5 秒消灯 のくり返し

●異常時のインジケーター表示

POWER	STATUS	LIGHT	TEMP.	本機の状態	処置方法
 青色 (点灯)	 オレンジ色 (点灯)	(各状態)	 (消灯)	本体キーロック中にボタンを押したとき プロジェクターの ID 番号とリモコンの ID 番号が一致しないとき	本体キーロック中です。操作する場合は、設定を解除する必要があります。 コントロール ID を確認してください。
 青色 (点灯)	 (消灯)	 オレンジ色 (点灯)	 オレンジ色 (点灯)	周囲高温	周囲の温度が高くなっているため、保護機能が働いています。室温を下げてください。
 赤色 (短い点滅※5)	 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	温度エラー	室温が、本機の動作温度 (0 ~ 45℃) を超えています。適切な室温に調節してください。また、排気口がふさがれていないか、吸気口の近くに他のプロジェクターの排気口がないか確認してください。
 赤色 (点灯)	(各状態)	(各状態)	 (消灯)	修理が必要な異常発生中	NEC カスタマーサポートセンターへ修理を依頼してください。その際に、インジケーターの点灯状態をお知らせください。

※5 0.5 秒点灯 / 2.5 秒消灯 のくり返し

●温度プロテクターが働いたときは

本機内部の温度が異常に高くなると、電源インジケーターが赤色で短く点滅します。その後、本機の温度プロテクター機能が働いて、本機の電源が切れることがあります。このようなときは、以下の処置をしてください。

- ・電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・周囲の温度が高い場所に置いて使用しているときは、涼しい場所に設置しなおしてください。
- ・通風口にほこりがたまっていたら、清掃してください。
- ・本機内部の温度が下がるまで、約 1 時間そのままにしてください。

3-4. レンズユニット(別売)の取り付けかた

本機は、10 種類の別売レンズユニットが使用できます。ここでは NP13ZL (2 倍ズーム) のレンズユニットで説明します。他のレンズユニットも同じ方法で取り付けてください。レンズユニットを本機に取り付けたとき、またはレンズユニットを交換したときは、本体の ZOOM/L-CALIB ボタンを長く (2 秒以上) 押し、「レンズキャリブレーション」を実行してください。

レンズキャリブレーションにより、レンズの調整範囲を校正します。



警告

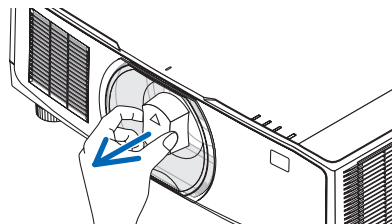
- レンズユニットは (1) 電源を切る操作をし、冷却ファンが停止するのを待つ、(2) 電源プラグをコンセントから抜いて、本体が十分冷えてから着脱してください。投写状態で着脱すると目の障害、感電やけどの原因になります。

【重要】

- プロジェクターおよびレンズユニットは精密部品でできています。衝撃を与えたり、無理な力を加えたりしないでください。
- 別売のレンズユニットを装着しているときに本機を移動する際はいったんレンズユニットを取り外してください。移動する際にレンズユニットに衝撃を与えると、レンズユニットおよびレンズシフト機構が破損するおそれがあります。
- 本機からレンズユニットを取り外す際は、電源を切る前にレンズ位置をホームポジションに戻してください。ホームポジションに戻していないと、プロジェクターとレンズユニットの隙間が狭くなり、取り外しおよび取り付けの障害になります。
- 作業中、レンズ面には絶対に手を触れないでください。
- レンズ面にゴミや油などが付着しないよう、また、傷が付かないように十分ご注意ください。
- 平らな場所で、傷が付かないように布などを敷いて作業してください。
- 長時間レンズユニットを外しておく場合は、防塵キャップを本体に取り付け、ほこりやゴミが内部に入らないようにしてください。
- NP50ZL を取り付け後は、必ず同梱のサポートキットを使って、プロジェクター本体とレンズユニットを固定してください。詳しくは、NP50ZL に添付の取扱説明書をご覧ください。
- NP44ML を取り付け後は、必ず別売のサポートキット (NP01LK) を使って、プロジェクター本体とレンズユニットを固定してください。詳しくは、サポートキットに添付の取扱説明書をご覧ください。

レンズユニットを取り付ける

1. 本体の防塵キャップを外す。

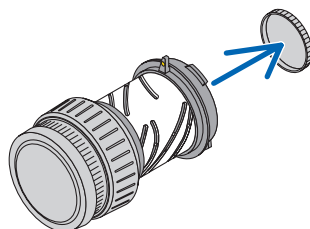


2. レンズユニット後ろのレンズキャップを外す。

・レンズユニット NP13ZL で説明しています。

【注意】

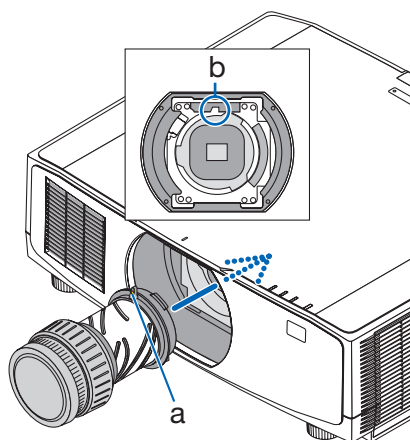
- 後ろのレンズキャップは必ず取り外してください。後ろのレンズキャップを取り付けたまま本体に取り付けると故障の原因となります。



3. レンズユニットの突起③を、プロジェクターのレンズ挿入口のミゾ④に合わせて挿入する。

- ・ NP11FL/NP12ZL/NP13ZL/NP14ZL/NP15ZL の突起には黄色のマークが付いています。
- ・ NP40ZL/NP41ZL/NP43ZL/NP50ZL/NP44ML はレンズユニットの貼付ラベル内の矢印で突起を示しています。

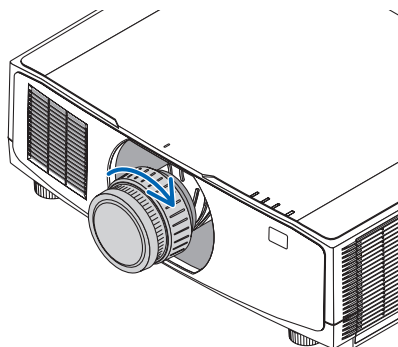
ゆっくり奥まで挿入してください



4. レンズユニットを右に回す。

【注意】

- レンズユニットを取り付けるときに、レンズ取り付け部の下にあるレンズリリースボタンを押さないでください。レンズユニットを正しい位置に固定できなくなります。

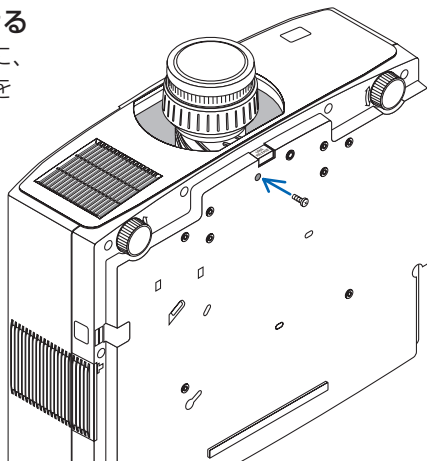


カチッと音がするまで回します。

レンズユニットがプロジェクター本体に固定されます。

5. レンズユニット盗難防止用ネジを取り付ける

レンズユニットを簡単に取り外されないように、本機に添付のレンズユニット盗難防止用ネジを本体底面にネジ止めします。



レンズユニットを取り外す

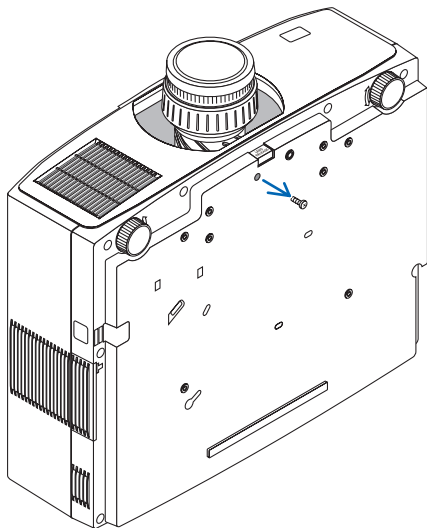
準備：1. プロジェクターの電源を入れ投写状態にしてください。

2. 本体の SHIFT/HOME POSITION ボタンを長押し（約 2 秒以上）してください。
レンズ位置がホームポジションに戻ります。

3. 電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

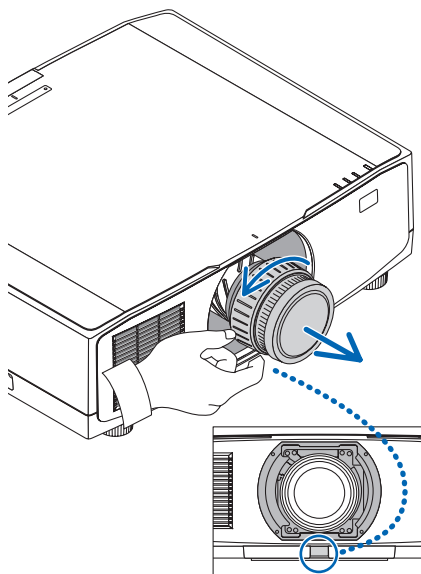
4. しばらく待って、本体が十分に冷えたことを確認してください。

1. レンズユニット盗難防止用ネジを外す。



2. プロジェクター本体前面のレンズ取り付け部の下にあるレンズリリースボタンを奥まで押し込みながら、レンズユニットを左に回す。

レンズユニットが外れます。

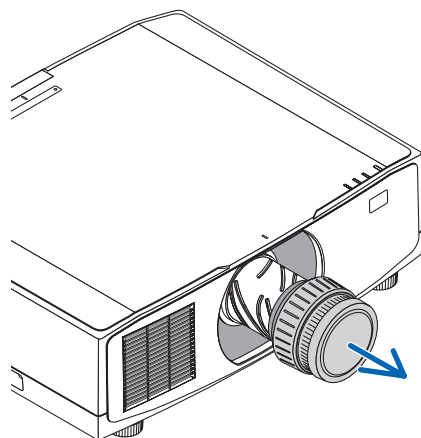


3. プロジェクター本体からレンズユニットをゆっくり引き出す。

・ 外したレンズユニットはレンズユニットに添付していたレンズキャップ（前と後）を取り付けてから保管してください。

・ レンズユニットを取り付けないときは、本体に添付の防塵キャップを取り付けてください。

このとき、防塵キャップの識別マーク（△）が上を向くようにしてください。



保証と修理サービス（必ずお読みください）

保証書

この商品には、保証書を別途添付しております。

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと大切に保存してください。

●保証期間

保証書をご覧ください。（ただし、定期交換部品、消耗品、添付品は除く）

補修用性能部品の保有期間

当社は、このプロジェクターの補修用性能部品を製造打切後、8年保有しています。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご質問は

製品の故障、修理に関するご質問は NEC プロジェクター・カスタマサポートセンター（→[裏表紙](#)）をお願いいたします。

修理を依頼されるときは

「故障かな？と思ったら」（→ [63](#) ページ）に従って調べていただき、あわせて当社ホームページに掲載している「トラブルチェックシート」で現象を確認してください。

（<https://www.sharp-nec-displays.com/jp/support/projector/check/trouble.html>）

その上でなお異常があるときは、電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターにご連絡ください。

●修理形態

保証書をご覧ください。

●保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。

保証書の規定に従って NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターが修理させていただきます。

●保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品名	NEC プロジェクター	
型名	NP-PV800UL-WJL NP-PV800UL-BJL NP-PV730UL-WJL NP-PV730UL-BJL	
お買い上げ日	年	月 日
故障の状況	できるだけ具体的に	
ご住所		
お名前	法人名、ご担当者名	
電話番号		

べんり メモ	お買い上げ 店名	☎() -
-----------	-------------	----------------

プロジェクターに関するお問い合わせから修理のご依頼まで プロジェクターの
トータルサポート窓口

NEC プロジェクター・カスタマサポートセンター

- NEC製プロジェクターに関するお問い合わせや修理のご依頼を専任スタッフが受け
いたします。

TEL **0120-610-161** FAX 0120-134-516

受付時間 9:00～18:00（土・日・祝日、その他特定日を除く）
通話料無料：携帯電話／PHS からでもご利用いただけます。

ホームページ <https://www.sharp-nec-displays.com/jp/support/projector/>

シャープNECディスプレイソリューションズ株式会社